

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	心理学 I	科目の別	講 義	単位数	2
担当教員	八木 順子	実務経験	無	時間数	30
学修内容	心理学の視点から人について学びます。 ① 人の発達課題・問題 ②精神疾患 ③コミュニケーション技法				
到達目標	心理学を学ぶことにより、人への深い理解をもつことができるようになる。				
成績評価	試験・提出物・出席等で総合的に評価します。				
使用教材	プリントを配布いたします。				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション・心理学について
第 2 回	自分自身を知る
第 3 回	こころとからだ
第 4 回	身体関連障害
第 5 回	発達について
第 6 回	こころの発達Ⅰ（胎児期・新生児期）
第 7 回	こころの発達Ⅱ（乳児期・幼児期）
第 8 回	こころの発達Ⅲ（学童期）
第 9 回	神経発達障害
第 10 回	児童虐待
第 11 回	こころの発達Ⅳ（青年期）
第 12 回	不安障害
第 13 回	摂食障害
第 14 回	コミュニケーション技法Ⅰ
第 15 回	まとめ

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	心理学Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	2
担当教員	八木順子	実務経験	無	時間数	30
学修内容	心理学の視点から人について学びます。 人の発達課題・問題 ②精神疾患 ③コミュニケーション技法				
到達目標	心理学を学ぶことにより、人への深い理解をもつことができるようになる。				
成績評価	試験・提出物・出席等で総合的に評価します。				
使用教材	プリントを配布いたします。				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	性別違和
第 2 回	統合失調症スペクトラム
第 3 回	強迫関連障害
第 4 回	うつ病・双極性障害
第 5 回	パーソナリティ障害
第 6 回	こころの発達Ⅴ（成人期）・物質関連障害及び嗜癖
第 7 回	ドメスティック・バイオレンス・性暴力
第 8 回	外傷後ストレス障害・解離性障害
第 9 回	こころの発達Ⅵ（老年期）・神経認知障害
第 10 回	老い・死・看取り
第 11 回	スポーツ心理学Ⅰ
第 12 回	スポーツ心理学Ⅱ
第 13 回	倫理
第 14 回	コミュニケーション技法Ⅱ
第 15 回	まとめ

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	保健概論 I	科目の別	講 義	単位数	2
担当教員	愛知 秀一	実務経験	無	時間数	30
学修内容	柔道整復師になるのに必要な運動器の名称と機能を体感する 運動機能向上のメカニズムを理解し実践する				
到達目標	主要な骨格筋の名称を理解しストレッチ・トレーニングを通じて体感する 機能訓練指導員として必要な運動処方を理解し体験する 将来、患者さんの指導管理に必要となる健康体操を体感する				
成績評価	出席 50% 授業内の課題 50%による				
使用教材	体操療法オールブック 編集：高平尚伸 Medical View				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	授業概要
第 2 回	運動器について
第 3 回	ストレッチについて
第 4 回	セルフストレッチ 上半身
第 5 回	セルフストレッチ 下半身
第 6 回	パートナーストレッチ 上半身
第 7 回	パートナーストレッチ 下半身
第 8 回	トレーニング理論 機能訓練について
第 9 回	レジスタンストレーニング①
第 10 回	レジスタンストレーニング②
第 11 回	ロコモ
第 12 回	有酸素トレーニング①
第 13 回	有酸素トレーニング②
第 14 回	バランストレーニング①
第 15 回	バランストレーニング

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	保健概論Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	2 単位
担当教員	愛知 秀一	実務経験	無	時間数	3 0 時間
学修内容	柔道整復師になるのに必要な運動器の名称と機能を体感する 運動機能向上のメカニズムを理解し実践する				
到達目標	主要な骨格筋の名称を理解しストレッチ・トレーニングを通じて体感する 機能訓練指導員として必要な運動処方を理解し体験する 将来、患者さんの指導管理に必要となる健康体操を体感する				
成績評価	出席 5 0 % 授業内の課題 5 0 %による				
使用教材	体操療法オールブック 編集：高平尚伸 Medical View				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	指導管理について
第 2 回	肩こり体操
第 3 回	肩こり体操
第 4 回	肩こり体操
第 5 回	腰痛体操
第 6 回	腰痛体操
第 7 回	腰痛体操
第 8 回	膝痛体操
第 9 回	膝痛体操
第 10 回	各種テーピング
第 11 回	各種テーピング
第 12 回	各種テーピング
第 13 回	各種テーピング
第 14 回	各種テーピング
第 15 回	総合復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	統計学	科目の別	講 義	単位数	2
担当教員	平松裕紀子	実務経験	無	時間数	30
学修内容	将来、社会に出ると様々なデータを目にする機会が多々ある。そんな時、それを鵜呑みにしたり、漠然と見たりするのではなく、その数字やグラフから読み取るべきことを見抜く洞察力を養う。				
到達目標	統計の専門用語 平均、メディアン、中央点、モード、分散、標準偏差について説明でき、実際に計算して値を求めることができる。 検定の手順、方法を理解し、場合によっては異なる検定方法を正しく選べるようにする。				
成績評価	定期試験 70% 毎回のレポート 15% 出席点 15%				
使用教材	社会科学系学生のための統計学 佐々木政文著（共立出版株式会社）				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	第 1 章 確率統計の基本概念（実力テストを含む）
第 2 回	第 2 章 データの処理（I）(1)母集団と標本
第 3 回	〃 (2)データの整理
第 4 回	〃 (3)データの特性値
第 5 回	〃 (4)プリント学習
第 6 回	第 5 章 連続学分布 (1)正規分布（I）
第 7 回	〃 (2) 〃 (III)
第 8 回	〃 (3)教科書以外の問題
第 9 回	〃 (4)四分位範囲と箱ひげ図
第 10 回	〃 (5) 〃
第 11 回	第 10 章 検定 (1)検定の手順
第 12 回	〃 (2)平均の検定
第 13 回	〃 (3)平均の差の検定
第 14 回	〃 (4)差の平均の検定
第 15 回	〃 (5)試験対策プリントで学習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	前期
科目名	英語 I	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	牧 祥子	実務経験	無	時間数	30
学修内容	一般常識としての基礎的で実践的な英語の発音・文法・単語と英会話。				
到達目標	日常会話レベルにおいて、伝えたいことを伝えるための土台として発音と文法の基礎を身につける。また、英語に対する苦手意識を減らし、英語でのコミュニケーションに対する自信をつける。				
成績評価	定期試験（中間試験 30 点、期末試験 70 点）				
使用教材	プリント等				
留意点	授業に集中し、前向きに取り組んでください。				

回 数	授業計画
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	発音の基礎・スペル
第 3 回	発音・文法（1）、発話の練習
第 4 回	発音・文法（2）、発話の練習
第 5 回	発音・文法（3）、発話の練習
第 6 回	発音・文法（4）、発話の練習
第 7 回	発音・文法（5）、発話の練習
第 8 回	発音・文法（6）、発話の練習
第 9 回	基本の単語と構文（1）
第 10 回	基本の単語と構文（2）
第 11 回	基本の単語と構文（3）
第 12 回	基本の単語と構文（4）
第 13 回	英会話（質問する/答える）
第 14 回	英会話（依頼する/引き受ける/断る）
第 15 回	総復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後期
科目名	英語Ⅱ	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	牧 祥子	実務経験	無	時間数	30
学修内容	様々な場面での基本的な英語を使った会話を練習する。 英語や英語のスピーチを通して英語圏での文化・習慣や価値観を知る。				
到達目標	基礎的な英語での会話、メール作成ができるようになる。				
成績評価	定期試験（中間試験 30 点、期末試験 70 点）				
使用教材	プリント等。				
留意点	アウトプットに重点をおきます。積極的に取り組んでください。				

回 数	授業計画
第 1 回	発音・文法・構文の復習、リスニング
第 2 回	発音・文法・構文の復習、リスニング
第 3 回	英会話（あいさつ・自己紹介・あいづち）
第 4 回	英会話（日付・時間・数字）
第 5 回	英会話（海外旅行・買い物）
第 6 回	英会話（ビジネス・電話応対）
第 7 回	英会話（治療院・病院）、身体部位の英語
第 8 回	英語のスピーチのリスニングとシャドーイング
第 9 回	英語のスピーチのリスニングとシャドーイング
第 10 回	英語のスピーチのリスニングとシャドーイング
第 11 回	英語のスピーチのリスニングとシャドーイング
第 12 回	英語でメールを送る（問い合わせ・依頼）
第 13 回	英語でメールを送る（クレーム）
第 14 回	英作文（小論文）
第 15 回	英作文（小論文）

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	解剖学 I	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	高橋 亮	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な骨格系の知識を修得する。				
到達目標	骨およびその部位名称が理解できること。体表から触れる構造については、正確に触察できること。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	解剖学（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・医歯薬出版） コメディカルのための臨床解剖学サブノート（筋） 人体の正常構造と機能 日本医事新報社 プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（医学書院） 骨学のすゝめ（南江堂）				
留意点	学習内容が多いため、講義ごとに復習すること。 骨格模型や体表触察を通じて、筋骨格系の 3 次元的な理解を心がけること。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション 骨学総論 全身の骨
第 2 回	肩甲帯（鎖骨・肩甲骨）
第 3 回	上腕骨、肩関節
第 4 回	橈骨・尺骨、肘関節
第 5 回	手指の骨、手関節
第 6 回	手指の骨、手関節
第 7 回	骨盤
第 8 回	大腿の骨・股関節
第 9 回	下腿の骨・膝関節
第 10 回	足の骨・距腿関節
第 11 回	脊柱
第 12 回	脊柱
第 13 回	胸郭
第 14 回	頭蓋
第 15 回	頭蓋

2022 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	解剖学Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	高橋 亮	実務経験	無	時間数	30
学修内容	人体の構造をマクロからミクロまで統括的に学び、機能的意義を理解する。				
到達目標	人体構造の系統を把握し、解剖用語によって正確に説明できる。 脈管系の構成、細胞・組織の特徴、機能的・臨床的意義を説明できる。				
成績評価	定期試験、小テスト、レポート、学習態度				
使用教材	「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」 「解剖学」医歯薬出版株式会社				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	脈管系 総論
第 2 回	心臓Ⅰ 位置と形態、構造、弁
第 3 回	心臓Ⅱ 心壁、心臓の脈管と神経、心膜
第 4 回	動脈系Ⅰ 大動脈、頭頸部の動脈（1）
第 5 回	動脈系Ⅱ 頭頸部の動脈（2）
第 6 回	動脈系Ⅲ 上肢の動脈
第 7 回	動脈系Ⅳ 胸大動脈、腹大動脈（1）
第 8 回	動脈系Ⅴ 腹大動脈（2）
第 9 回	動脈系Ⅵ 骨盤部の動脈、下肢の動脈
第 10 回	静脈系Ⅰ 上大静脈（1）
第 11 回	静脈系Ⅱ 上大静脈（2）
第 12 回	静脈系Ⅲ 下大静脈（1）、門脈
第 13 回	静脈系Ⅳ 下大静脈（2）
第 14 回	リンパ系、胎児循環
第 15 回	内臓系 消化器Ⅰ 総論、口（1）

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	解剖学Ⅲ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	高橋 亮	実務経験	無	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な筋系の知識を修得する。				
到達目標	筋の起始、停止、支配神経および作用について、骨格模型を用いて説明できること。				
成績評価	定期テスト 100%				
使用教材	解剖学（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・医歯薬出版） コメディカルのための臨床解剖学サブノート（筋） 人体の正常構造と機能 日本医事新報社 プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（医学書院） 骨学のすゝめ（南江堂）				
留意点	学習内容が多いため、講義ごとに復習すること。 骨格模型や体表触察を通じて、筋骨格系の 3 次元的な理解を心がけること。				

回 数	授業計画
第 1 回	胸部の筋（浅胸筋と深胸筋）
第 2 回	肩甲筋
第 3 回	上腕の筋
第 4 回	前腕の筋
第 5 回	前腕の筋
第 6 回	手の筋
第 7 回	骨盤の筋
第 8 回	大腿の筋（前面）
第 9 回	大腿の筋（後面）
第 10 回	下腿の筋
第 11 回	下腿の筋
第 12 回	足部の筋
第 13 回	背部の筋 頸部の筋
第 14 回	胸部の筋 腹部の筋
第 15 回	顔面の筋

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	解剖学Ⅳ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	高橋 亮	実務経験	無	時間数	30
学修内容	人体の構造をマクロからミクロまで統括的に学び、機能的意義を理解する。				
到達目標	人体構造の系統を把握し、解剖用語によって正確に説明できる。 内臓系の構成、細胞・組織の特徴、機能的・臨床的意義を説明できる。				
成績評価	定期試験、小テスト、レポート、学習態度				
使用教材	「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」 「解剖学」医歯薬出版株式会社				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	消化器Ⅱ 口（2）
第 2 回	消化器Ⅲ 咽頭、食道、胃
第 3 回	消化器Ⅳ 小腸
第 4 回	消化器Ⅴ 大腸、肝臓
第 5 回	消化器Ⅵ 胆嚢、膵臓、腹膜
第 6 回	呼吸器Ⅰ 総論、鼻、喉頭
第 7 回	呼吸器Ⅱ 気管・気管支、肺、胸膜
第 8 回	泌尿器Ⅰ 総論、腎臓
第 9 回	泌尿器Ⅱ 尿管、膀胱、尿道
第 10 回	生殖器Ⅰ 総論、男性生殖器（1）
第 11 回	生殖器Ⅱ 男性生殖器（2）（3）
第 12 回	生殖器Ⅲ 女性生殖器（1）
第 13 回	生殖器Ⅳ 女性生殖器（2）
第 14 回	生殖器Ⅴ 女性生殖器（3）
第 15 回	内分泌系 内分泌臓器

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	解剖学Ⅴ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	中野 隆	実務経験	無	時間数	30
学修内容	神経系の構造と機能を統括的に学び、その意義を理解する。				
到達目標	神経系の構造を統括的に理解し、解剖学用語によって正確に述べることができる。 神経系の構造と機能を結びつけて説明できる。 神経系、運動器系、感覚器系、内臓系の知識を統合し、説明できる。 画像解剖学と対応させて、神経系の三次元構造を説明できる。				
成績評価	定期試験（100％）				
使用教材	コメディカルのための臨床解剖学サブノート プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（医学書院） 機能解剖で斬る神経系疾患 第2版（メディカルプレス） 骨学のすゝめ（南江堂）				
留意点					

回 数	授業計画
第1回	解剖学総論
第2回	神経系総論
第3回	中枢神経系総論
第4回	中枢神経系総論
第5回	脊髄
第6回	脊髄
第7回	脊髄
第8回	脳幹
第9回	脳幹
第10回	脳幹
第11回	間脳
第12回	小脳
第13回	大脳皮質
第14回	大脳皮質
第15回	髄膜

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	解剖学VI	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	中野 隆	実務経験	無	時間数	30
学修内容	神経系の構造と機能を統括的に学び、その意義を理解する。				
到達目標	神経系の構造を統括的に理解し、解剖学用語によって正確に述べることができる。 神経系の構造と機能を結びつけて説明できる。 神経系、運動器系、感覚器系、内臓系の知識を統合し、説明できる。 画像解剖学と対応させて、神経系の三次元構造を説明できる。				
成績評価	定期試験（100％）				
使用教材	「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」 プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（医学書院） 機能解剖で斬る神経系疾患 第2版（メディカルプレス） 骨学のすゝめ（南江堂）				
留意点					

回 数	授業計画
第1回	中枢神経系の脈管
第2回	中枢神経系の脈管
第3回	中枢神経系の脈管
第4回	伝導路
第5回	伝導路
第6回	伝導路
第7回	伝導路
第8回	伝導路
第9回	脳神経
第10回	脳神経
第11回	脳神経
第12回	脊髄神経
第13回	脊髄神経
第14回	脊髄神経
第15回	脊髄神経

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	生理学 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	小野 健治	実務経験	無	時間数	30
学修内容	生理学とはどのような学問か理解し、神経細胞や筋細胞の基本的な性質や機能についての知識を習得する。				
到達目標	生体がどのように構成されているか理解する。神経細胞の構造を理解する。 神経細胞の機能とその機序について説明することができる。 筋細胞の構造や機能を理解し、骨格筋、平滑筋、心筋の違いを説明することができる。				
成績評価	定期試験 80% と小テスト 20% の計 100% で評価する。 小テストは、前回授業の復習を兼ねた内容とする。 定期試験は、前期授業内容の全範囲から出題する。				
使用教材	生理学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 トートラ人体の構造と機能 丸善出版 授業はスライドを用いて行い、授業時にはスライドを印刷したレジメを配布する。				
留意点	授業開始時に小テストを行うので、原則遅刻してこないこと。（期末評価に影響します。） 生理学の内容は解剖学など他の教科にもつながっていく内容が多い。また、前期の授業内容は後期の授業内容のベースとなるので、授業ごとに復習をする習慣を身につけしっかり理解を深める努力をしてください。				

回 数	授業計画
第 1 回	生理学の基礎：生理学とは、人体を構成する要素、ホメオスタシス
第 2 回	生理学の基礎：からだの化学的構成 1
第 3 回	生理学の基礎：からだの化学的構成 2
第 4 回	生理学の基礎：細胞の機能的構造
第 5 回	生理学の基礎：受動輸送、能動輸送、膜動輸送
第 6 回	神経の基本的機能：神経細胞の形態、静止膜電位
第 7 回	神経の基本的機能：活動電位、閾刺激、全か無かの法則
第 8 回	神経の基本的機能：不応期、イオンチャネル
第 9 回	神経の基本的機能：興奮の伝導、複合活動電位
第 10 回	神経の基本的機能：興奮の伝達
第 11 回	筋肉の機能：筋の種類、骨格筋の構造
第 12 回	筋肉の機能：筋収縮のしくみ、筋細胞膜を興奮させるしくみ
第 13 回	筋肉の機能：骨格筋の収縮の仕方、筋肉の長さ と 張力 の 関係
第 14 回	筋肉の機能：筋収縮のエネルギー、筋の熱発生、筋電図
第 15 回	筋肉の機能：平滑筋、心筋

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	生理学Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	小野 健治	実務経験	無	時間数	30
学修内容	生体内において神経回路がどのようにはりめぐらされ、体内の機能をどのようにコントロールしているのかを理解し、他人に説明できる程度の知識を養う。				
到達目標	中枢神経系と末梢神経系の機能と相違について説明することができる。 体性神経系と自律神経系の神経回路と機能について説明することができる。 神経回路の単なる繋がり方だけではなく、神経回路網を介した脳や脊髄部位ごとの機能的な役割や機序について理解する。				
成績評価	定期試験 80%と小テスト20%の計100%で評価する。小テストは、前回授業の復習を兼ねた内容とする。定期試験は、後期授業内容の全範囲から出題する。				
使用教材	生理学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 トートラ人体の構造と機能 丸善出版 授業はスライドを用いて行い、授業時にはスライドを印刷したレジメを配布する。				
留意点	授業開始時に小テストを行うので、原則遅刻してこないこと。（期末評価に影響します。） 前期と比べると授業内容が多く複雑になっていくので、授業ごとに必ず復習を行ってください。後期内容の理解には前期内容の理解が必須ですので、必要に応じて前期内容も復習してください。				

回 数	授業計画
第1回	神経系の機能：神経系の成り立ち1
第2回	神経系の機能：神経系の成り立ち2
第3回	神経系の機能：内蔵機能調節1
第4回	神経系の機能：内蔵機能調節2
第5回	神経系の機能：姿勢と運動の調節1
第6回	神経系の機能：姿勢と運動の調節2
第7回	神経系の機能：姿勢と運動の調節3
第8回	神経系の機能：姿勢と運動の調節4
第9回	神経系の機能：高次機能1
第10回	神経系の機能：高次機能2
第11回	感覚の生理学：感覚の種類、感覚の一般的性質
第12回	感覚の生理学：体性感覚
第13回	感覚の生理学：内臓感覚、嗅覚、味覚
第14回	感覚の生理学：聴覚、前庭感覚
第15回	感覚の生理学：視覚

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	生理学Ⅲ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	溝口 博之	実務経験	無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な生理学の基礎的知識を修得する。 2 年次の柔道整復理論（各論編）を理解するための基礎知識を身につける。				
到達目標	骨の構造・形成、骨の病気について説明することができる。 体液の区分や調整、血液の組成について説明することができる。 免疫機能について説明することができる。 心臓の機能、血圧、リンパ管系について説明することができる。 循環（神経性、体液性、脳脊髄液など）の調節機構について説明することができる。				
成績評価	期末テスト（約 80 点相当）と授業期間中に行う数回の小テスト・出席（約 20 点）とで合否を判断する。				
使用教材	生理学教科者（南江堂） トートラ／佐伯他 訳：人体解剖生理学原書第 10 版（丸善出版、2017 年刊） 坂井他 訳：人体の正常構造と機能第 3 版（日本医事新報社、2017 年刊） 石川他 訳：ガイトン生理学 原著第 13 版（エルゼビア・ジャパン株式会社、2018 年刊）				
留意点	授業内容に関連した問題をだしたり、小テスト、レポート提出を行ったりする。 出席、授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 授業で使った配布資料を復習することもあるので、なるべく持参すること。				

回 数	授業計画
第 1 回	これまでの復習
第 2 回	骨の生理：骨の構造
第 3 回	骨の生理：骨の形成過程、骨形成と骨吸収、カルシウムの代謝の調節、骨年齢
第 4 回	血液：血液の成分と組成
第 5 回	血液：止血、
第 6 回	血液：血液型、免疫
第 7 回	循環：心臓の機能的解剖、心筋の電氣的活動
第 8 回	循環：心電図
第 9 回	循環：心臓の活動周期
第 10 回	循環：各血管の構造と働き
第 11 回	循環：血圧、リンパ管系
第 12 回	循環：循環の神経性調節・体液性調節
第 13 回	循環：循環調節 1
第 14 回	循環：循環調節 2
第 15 回	これまでの復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	生理学Ⅳ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	溝口 博之	実務経験	無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な生理学の基礎的知識を修得する。 2 年次の柔道整復理論（各論編）を理解するための基礎知識を身につける。				
到達目標	呼吸器の生理機能について説明することができる。各種のエネルギー代謝について説明することができる。体温の調節機構、熱放散の仕組みなどについて説明することができる。消化器系の働き、消化液分泌の分泌機序について説明することができる。糖質・蛋白質・脂質の消化、吸収、肝臓の働きについて説明することができる。				
成績評価	期末テスト（約 80 点相当）と授業期間中に行う数回の小テスト・出席（約 20 点）とで可否を判断する。				
使用教材	生理学教科者（南江堂） トートラ／佐伯他 訳：人体解剖生理学原書第 10 版（丸善出版、2017 年刊） 坂井他 訳：人体の正常構造と機能第 3 版（日本医事新報社、2017 年刊） 石川他 訳：ガイトン生理学 原著第 13 版（エルゼビア・ジャパン株式会社、2018 年刊）				
留意点	授業内容に関連した問題をだしたり、小テスト、レポート提出を行ったりする。 出席、授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 授業で使った配布資料を復習することもあるので、なるべく持参すること。				

回 数	授業計画
第 1 回	これまでの復習
第 2 回	呼吸器の機能的構造、換気の仕組み、内圧の変化
第 3 回	換気量、呼吸のための仕事、ガス交換
第 4 回	血液の酸素の運搬、二酸化炭素の運搬
第 5 回	呼吸を調節する仕組み、呼吸の異常、特殊環境下の呼吸
第 6 回	生体の構成成分と栄養素、高エネルギーリン酸化合物
第 7 回	吸収期の代謝、空腹期の代謝
第 8 回	中間代謝の調節、エネルギー代謝量の測定、各種のエネルギー代謝、エネルギー所要量
第 9 回	体温、体温の生理的変動、体内における熱の産生
第 10 回	熱放散の物理的仕組み、熱放散を調節する仕組み、体温の調節、うつ熱と発熱、気候順化
第 11 回	消化器系の働き、消化管の運動とその調節
第 12 回	消化液分泌の神経性機序と体液性機序、胃液の分泌機序
第 13 回	糖質・蛋白質・脂質の消化、吸収
第 14 回	消化管ホルモン、肝臓の働き、胆道系の働き
第 15 回	これまでの復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	生理学Ⅴ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	緒方 華	実務経験	有	時間数	30
学修内容	腎の機能と尿の生成、内分泌腺の機能、生殖器の役割について、その重要性の上に立って基本事項を修得し、機能発現のシステムを理解する。				
到達目標	国家試験合格水準を単位取得のラインとし、最低線の目標とする。 器官・組織の関係性から人体の機能を論理的に解釈し、病理学や、臨床医学へ繋げる。				
成績評価	期末に行う定期試験の点数で評価し、100点満点中60点を合格点とする。				
使用教材	全国柔道整復学校協会監修、生理学教科書				
留意点					

回 数	授業計画
第1回	腎の機能一般、腎の機能的構造、糸球体濾過
第2回	Na イオン・Cl イオンの再吸収、水の再吸収と排泄
第3回	グルコースの再吸収、尿細管における分泌
第4回	尿の成分、排尿
第5回	内分泌腺一般、ホルモンの定義・組成・分泌調節
第6回	ホルモンの血中運搬と代謝、作用機序、視床下部ホルモン
第7回	下垂体の構造、下垂体前葉ホルモン、下垂体後葉ホルモン
第8回	甲状腺の構造と分泌ホルモン、ホルモンの分泌調節・生理作用
第9回	副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン
第10回	膵臓の内分泌細胞、インスリン・グルカゴン・ソマトスタチン
第11回	精巣のホルモン、卵巣のホルモン
第12回	性染色体とその異常、性分化
第13回	男性生殖器系の構成、精子形成、勃起と射精
第14回	女性生殖器の構成、卵巣の周期、月経周期
第15回	妊娠と分娩、乳汁分泌

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	運動学 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	鵜飼建志	実務経験	有	時間数	30
学修内容	解剖学、生理学が人の運動にどのように影響してくるかを知る。人間の正常な運動を知り、異常な運動を理解し、改善のために必要ない要素（運動療法）を理解できるようにする。教科書を中心に講義を進めるが、臨床力をつけるための補足説明も加える。				
到達目標	「運動学」の概要を知り、人の運動を構成する構造と機能を理解する。 各関節の構造、機能、筋の作用などを理解し説明できるようにする。 運動学の講義を通し、柔道整復師にとって必要な患者を治すために最低限必要である正常な人の動きをイメージできるようにする。				
成績評価	定期試験の結果 90%（小テストを行った場合はここに加味する） 出席状況 10% 受講態度が悪いなど将来の患者に不利益を生じる可能性が高い、と判断した場合は警告し、反省・改善が見られなければ減点対象とする。				
使用教材	運動学（改訂第3版）：公益社団法人全国柔道整復学校協会 監修：医歯薬出版株式会社				
留意点	講義態度は、医療人としての責任感・倫理観について重視する。 再三再四の指導にも講義態度に改善が見られない場合には、定期試験を待たずに単位を認めない場合もある。定期試験の成績によっては再試験が受けられない可能性がある。				

回 数	授業計画
第1回	1. 運動学の目的 2. 運動の表し方
第2回	3. 身体運動と力学 A. ベクトル、B. てこ など
第3回	3. 身体運動と力学 C. 運動の法則、 D. 仕事と力学的エネルギー
第4回	4. 運動器の構造と機能 A. 骨 B. 関節
第5回	4. 運動器の構造と機能 C. 骨格筋
第6回	5. 神経の構造と機能 A. 神経細胞 B. 末梢神経
第7回	5. 神経の構造と機能 C. 中枢神経
第8回	6. 運動感覚
第9回	7. 反射と随意運動 A. 反射
第10回	7. 反射と随意運動 B. 随意運動
第11回	8. 四肢と体幹の運動 A. 上肢帯
第12回	8. 四肢と体幹の運動 B. 肩関節
第13回	8. 四肢と体幹の運動 C. 肘と前腕
第14回	8. 四肢と体幹の運動 D. 手関節と手
第15回	8. 四肢と体幹の運動 E. 股関節

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	運動学Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	鵜飼建志	実務経験	有	時間数	30
学修内容	解剖学、生理学が人の運動にどのように影響してくるかを知る。人間の正常な運動を知り、異常な運動を理解し、改善のために必要ない要素（運動療法）を理解できるようにする。教科書を中心に講義を進めるが、臨床力をつけるための補足説明も加える。				
到達目標	「運動学」の概要を知り、人の運動を構成する構造と機能を理解する。 各関節の構造、機能、筋の作用などを理解し説明できるようにする。 運動学の講義を通し、柔道整復師にとって必要な患者を治すために最低限必要である正常な人の動きをイメージできるようにする。				
成績評価	定期試験の結果 90%（小テストを行った場合はここに加味する） 出席状況 10% 受講態度が悪いなど将来の患者に不利益を生じる可能性が高い、と判断した場合は警告し、反省・改善が見られなければ減点対象とする。				
使用教材	運動学（改訂第3版）：公益社団法人全国柔道整復学校協会 監修：医歯薬出版株式会社				
留意点	講義態度は、医療人としての責任感・倫理観について重視する。 再三再四の指導にも講義態度に改善が見られない場合には、定期試験を待たずに単位を認めない場合もある。定期試験の成績によっては再試験が受けられない可能性がある。				

回 数	授業計画
第1回	8. 四肢と体幹の運動 F. 膝
第2回	8. 四肢と体幹の運動 G. 足関節と足部
第3回	8. 四肢と体幹の運動 H. 体幹と脊柱
第4回	8. 四肢と体幹の運動 I. 頸椎
第5回	8. 四肢と体幹の運動 J. 胸椎
第6回	8. 四肢と体幹の運動 K. 腰椎、仙椎および骨盤
第7回	8. 四肢と体幹の運動 L. 顔面および頭部
第8回	9. 姿勢
第9回	10. 歩行 A. 歩行周期 B. 運動学的分析
第10回	10. 歩行 C. 運動力学的分析 D. 筋活動
第11回	10. 歩行 E. エネルギー代謝 F. 異常歩行
第12回	11. 運動発達
第13回	12. 運動学習
第14回	運動学的なストレッチング1（理論と実技）
第15回	運動学的なストレッチング2（実技）

2023 年度 授業計画

科の種別	柔道整復科 I 部
------	-----------

		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	生理学VI	科目の別	講 義	単位数	2
担当教員	緒方 華	実務経験	有	時間数	30
学修内容	生理学Ⅰ～Ⅴで学習したことを踏まえ、高齢者および競技者の生理学的特性と変化について学び、それに伴う疾患について論理的の一貫性をもって理解する。				
到達目標	加齢による身体変化や高齢者に特有の疾患・障害について、論理的説明をすることができる。また、スポーツおよびトレーニングによる身体変化を説明できる。				
成績評価	期末に行う定期試験の点数で評価し、100点満点中60点を合格点とする。				
使用教材	全国柔道整復学校協会監修、生理学教科書				
留意点	30時間の内訳は、「高齢者の生理学的特徴・変化」で15時間、「競技者の生理学的特徴・変化」で15時間とする。				

回 数	授業計画
第1回	高齢者の生理学的特性 細胞、組織の加齢現象
第2回	加齢による臓器機能の変化 神経系・運動器系・感覚器系
第3回	加齢による臓器機能の変化 循環器系・呼吸器系・消化器系 皮膚
第4回	高齢者特有の疾患・障害 身体的フレイル・認知症・パーキンソン病
第5回	高齢者特有の疾患・障害 骨粗鬆症・転倒・睡眠障害
第6回	運動と加齢 歩行機能
第7回	運動と加齢 平衡機能 反応時間
第8回	高齢者の生理学的特徴まとめ / 競技者の生理学的特性 発育特性
第9回	少年期から青年期の骨・筋肉系の発育と運動
第10回	少年期から青年期の呼吸循環系機能と運動
第11回	発育期の運動不足、過運動の影響、運動の習熟
第12回	スポーツおよびトレーニングによる適応（筋・心肺機能）
第13回	競技者の神経機構の特性
第14回	姿勢調節・眼球運動と姿勢制御
第15回	競技者の種別における競技力向上と栄養

		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	病理学概論 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	楠本 高紀	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な病理学の知識を修得する。 疾病の本態を探究する病理学の概念を知り、疾病の発生機序と分類、それによってもたらされる病態の概要を学ぶ。				
到達目標	疾病に関する知識を深め、疾病の経過、予後、転帰を理解する。 細胞障害、循環障害、進行性病変、炎症の理解を深める。				
成績評価	定期試験、出席率、態度などを勘案して評価する。				
使用教材	病理学概論：公益社団法人全国柔道整復学校協会版（医歯薬出版） 授業時の配布資料				
留意点	出席率の評価は本校の生徒便覧の記載に準拠するが、授業については全出席すること基本と思慮するため、欠席しがちの生徒には指導するので心がけておくこと。				

回 数	授業計画
第 1 回	病理学概論
第 2 回	疾病の一般
第 3 回	退行性病変（1）
第 4 回	退行性病変（2）
第 5 回	代謝障害（1）
第 6 回	代謝障害（2）
第 7 回	進行性病変（1）
第 8 回	進行性病変（2）
第 9 回	細胞、組織の適応（1）
第 10 回	細胞、組織の適応（2）
第 11 回	炎症総論（1）
第 12 回	炎症総論（2）
第 13 回	炎症各論（1）
第 14 回	炎症各論（2）
第 15 回	総まとめ

		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	病理学概論Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	楠本 高紀	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な病理学の知識を修得する。 疾病の本態を探究する病理学の概念を知り、疾病の発生機序と分類、それによってもたらされる病態の概要を学ぶ。				
到達目標	疾病に関する知識を深め、疾病の経過、予後、転帰を理解する。 免疫異常、腫瘍、先天性奇形、病因に関する理解を深める。				
成績評価	定期試験、出席率、態度などを勘案して評価する。				
使用教材	病理学概論：公益社団法人全国柔道整復学校協会版（医歯薬出版） 授業時の配布資料				
留意点	出席率の評価は本校の生徒便覧の記載に準拠するが、授業については全出席すること基本 と思慮するため、欠席しがちの生徒には指導するので心がけておくこと。				

回 数	授業計画
第1回	免疫総論
第2回	免疫各論（1）
第3回	免疫各論（2）
第4回	腫瘍総論（1）
第5回	腫瘍総論（2）
第6回	腫瘍各論（1）
第7回	腫瘍各論（2）
第8回	先天異常総論
第9回	先天異常各論
第10回	外因（1）
第11回	外因（2）
第12回	内因（1）
第13回	内因（2）
第14回	総まとめ
第15回	総まとめ（2）

		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	一般臨床 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	楠本 高紀	実務経験	有・無	時間数	3 0
学修内容	柔道整復師に必要な診察の基本を修得することができる。				
到達目標	1. 各診察の方法とその意義を修得することができる。 2. 症状・所見から柔道整復師が臨床現場で注意しなければならない事項を修得することができる。				
成績評価	定期試験、出席率、態度などを勘案して評価する。				
使用教材	一般臨床医学：公益社団法人全国柔道整復学校協会版（南江堂） 授業時の配布資料				
留意点	出席率の評価は本校の生徒便覧の記載に準拠するが、授業については全出席すること基本と思慮するため、欠席しがちの生徒には指導するので心がけておくこと。				

回 数	授業計画
第 1 回	ガイダンス、年間予定発表、診察概論（診察の意義、診察の進め方）
第 2 回	診察各論（医療面接、視診①）
第 3 回	〃 （視診②）
第 4 回	〃 （視診③）
第 5 回	〃 （視診④）
第 6 回	〃 （打診、聴診）
第 7 回	〃 （触診①）
第 8 回	〃 （触診②）
第 9 回	〃 （生命徴候、感覚検査）
第 10 回	〃 （反射検査①）
第 11 回	〃 （反射検査②）
第 12 回	〃 （代表的な臨床症状①）
第 13 回	〃 （代表的な臨床症状②）
第 14 回	〃 （代表的な臨床症状③）
第 15 回	〃 （検査法）

		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	一般臨床医学Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	舘正之	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な内科的知識を身に付ける。				
到達目標	国家試験合格に必要な知識を修得する。				
成績評価	定期試験および授業態度で評価。				
使用教材	一般臨床医学：公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	ガイダンス、講義予定説明
第 2 回	呼吸器疾患① 総論
第 3 回	呼吸器疾患② かぜ症候群～気胸
第 4 回	まとめ、小テスト
第 5 回	循環器疾患① 総論、うっ血性心不全、虚血性心疾患
第 6 回	循環器疾患② 心臓弁膜症、先天性心疾患
第 7 回	循環器疾患③ 高血圧症～不整脈
第 8 回	まとめ、小テスト
第 9 回	消化器疾患① 総論、食道炎～胃癌
第 10 回	消化器疾患② 潰瘍性大腸炎～腸閉塞
第 11 回	肝胆膵疾患① 急性肝炎～肝癌
第 12 回	肝胆膵疾患② 胆石症～腹膜疾患
第 13 回	まとめ、小テスト
第 14 回	代謝疾患
第 15 回	まとめ、小テスト

		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	一般臨床医学Ⅲ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	舘正之	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な内科的知識を身に付ける。				
到達目標	国家試験合格に必要な知識を習得する。				
成績評価	定期試験および授業態度で評価。				
使用教材	一般臨床医学：公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	ガイダンス、講義予定説明。内分泌疾患① 総論、下垂体疾患、甲状腺疾患
第 2 回	内分泌疾患② 副甲状腺疾患、副腎皮質疾患
第 3 回	まとめ 小テスト
第 4 回	血液・造血器疾患① 総論、赤血球疾患
第 5 回	血液・造血器疾患② 白血球疾患、リンパ系疾患、血漿蛋白異常症
第 6 回	まとめ 小テスト
第 7 回	腎・尿路疾患① 総論、腎不全、CKD、血液浄化療法 腎移植
第 8 回	腎・尿路疾患② 糸球体疾患、尿路感染症、泌尿器疾患
第 9 回	まとめ、小テスト
第 10 回	神経疾患① 総論、脳血管障害、腫瘍性疾患～筋疾患
第 11 回	神経疾患② パーキンソン病～筋疾患
第 12 回	まとめ、小テスト
第 13 回	リウマチ性疾患 総論、関節リウマチ～シェーグレン症候群
第 14 回	感染症 総論、AIDS、带状疱疹
第 15 回	まとめ、テスト

		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	外科学概論 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	鈴木伸典	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	外科学、観血的治療の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。				
到達目標	疾患や手術についての的確に説明できる。 さらに、メディアやネットの医療に関する情報に対して医学的に検証し、 偏見や独善的仮説を排除する姿勢を養う。				
成績評価	定期試験：4 択試験、80 点満点、 日常「おさらい問題」得点（最高 2 0 点）を併せて 60 点以上の得点で単位認定				
使用教材	外科学概論：南江堂				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	損傷論： 定義・種類 創傷治療
第 2 回	熱傷：概念・種類・治療・合併症
第 3 回	感染症：概念 感染性炎症
第 4 回	外表細菌性感染症 嫌気性感染症
第 5 回	腫瘍論： 概念・良性腫瘍
第 6 回	悪性腫瘍： 種類・診断・治療
第 7 回	肺癌・中皮腫 ： 診断、治療
第 8 回	食道癌・胃癌・大腸癌
第 9 回	肝癌・膵癌・胆道癌
第 10 回	乳癌・子宮癌・卵巣癌
第 11 回	甲状腺癌・腎癌・前立腺癌
第 12 回	ショック： 定義・種類・治療
第 13 回	輸血： 適応・種類 血液型
第 14 回	輸液： 適応・種類・IVH 胃瘻
第 15 回	性行為感染 ： 梅毒、クラミジア、HIV

		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	外科学概論Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	鈴木伸典	実務経験	有	時間数	30
学修内容	外科学、観血的治療の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。				
到達目標	疾患や手術についての的確に説明できる。 さらに、メディアやネットの医療に関する情報に対して医学的に検証し、 偏見や独善的仮説を排除する姿勢を養う。				
成績評価	定期試験：4 択試験、80 点満点、 日常「おさらい問題」得点（最高 20 点）を併せて 60 点以上の得点で単位認定				
使用教材	外科学概論：南江堂 一般臨床医学：南江堂				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	消毒と滅菌 ICT 感染防御
第 2 回	手術： 縫合・手術手技
第 3 回	麻酔： 概念・ 全身麻酔 筋弛緩薬
第 4 回	局所麻酔・ 神経ブロック 緩和ケア
第 5 回	移植と免疫 ・ 再生医療： iPS 細胞
第 6 回	出血と止血
第 7 回	心肺蘇生・救急医療 トリアージ
第 8 回	頭部外傷 ： 脳振蕩、 血腫
第 9 回	頭痛・意識障害 「癲癇」
第 10 回	胸部外傷 ： 気胸、胸壁動揺、気管損傷
第 11 回	胸痛 ： 虚血性心疾患、大動脈瘤
第 12 回	腹部外傷・腹痛 ： 消化性潰瘍、炎症性腸疾患
第 13 回	腹痛・嘔吐 ： 膵炎、イレウス、胆石
第 14 回	虫垂炎・ヘルニア・痔疾
第 15 回	背痛： 帯状疱疹、尿管結石

		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	整形外科科学概論 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	鈴木伸典	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	整形外科科学の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。				
到達目標	疾患や手術についての的確に説明できる。 さらに、メディアやネットの医療に関する情報に対して医学的に検証し、 偏見や独善的仮説を排除する姿勢を養う。				
成績評価	定期試験：4 択試験、80 点満点、 日常「おさらい問題」得点（最高 2 0 点）を併せて 60 点以上の得点で単位認定				
使用教材	整形外科科学：南江堂 柔道整復学 理論編：南江堂				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	骨の基礎知識
第 2 回	リモデリング ビタミン D 骨軟化
第 3 回	骨粗鬆症
第 4 回	骨折治癒過程・合併症
第 5 回	骨髄炎・骨腫瘍
第 6 回	系統的骨疾患
第 7 回	関節の基礎知識
第 8 回	関節の感染症 結核性関節炎
第 9 回	関節リウマチ： 病態・診断・治療法
第 10 回	変形性関節症 1
第 11 回	変形性関節症 2
第 12 回	骨端症・循環障害 非感染性関節疾患
第 13 回	発育性股関節形成不全・離断性骨軟骨炎
第 14 回	骨格異常足趾の変形
第 15 回	遺伝の話題

		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	整形外科科学概論Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	鈴木伸典	実務経験	有	時間数	30
学修内容	整形外科科学の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。				
到達目標	疾患や手術についての的確に説明できる。 さらに、メディアやネットの医療に関する情報に対して医学的に検証し、 偏見や独善的仮説を排除する姿勢を養う。				
成績評価	定期試験：4 択試験、80 点満点、 日常「おさらい問題」得点（最高 20 点）を併せて 60 点以上の得点で単位認定				
使用教材	整形外科科学：南江堂 柔道整復学 理論編：南江堂				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	骨格筋の基礎知識 筋膜
第 2 回	筋肉疾患 ： 進行性筋ジストロフィー・筋断裂
第 3 回	靱帯・腱の基礎知識
第 4 回	腱鞘炎 ・ 腱断裂
第 5 回	神経の基礎知識 神経麻痺
第 6 回	絞扼性神経障害：橈骨神経麻痺
第 7 回	正中神経麻痺・尺骨神経麻痺
第 8 回	腕神経叢疾患 ： 胸郭出口症候群 分娩麻痺 引き抜き損傷
第 9 回	絞扼性神経障害（下肢）
第 10 回	椎間板ヘルニア
第 11 回	脊柱管狭窄症
第 12 回	脊髄損傷： 概念・診断・リハビリテーション
第 13 回	脊髄疾患 脊髄腫瘍
第 14 回	脳性麻痺 歩行障害
第 15 回	湿布の薬理 ： NSAIDs

		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	リハビリテーション概論 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	鶴飼建志	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	リハビリテーションの一分野である「リハビリテーション医学」の概要を知る。 主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について学ぶ。教科書を中心に講義を進めるが、より理解を深め、臨床力をつけるための補足説明も加える。				
到達目標	リハビリテーション医学の概要、治療対象を知る。 主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について説明できる。 講義を通し、柔道整復師にとって必要な医療人としての一般常識、専門知識の基礎、倫理観などを知る。				
成績評価	定期試験の結果 90%（小テストを行った場合はここに加味する） 出席状況 10% 受講態度が悪いなど将来の患者に不利益を生じる可能性が高い、と判断した場合は警告し、反省・改善が見られなければ減点対象とする。				
使用教材	リハビリテーション医学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	講義態度は、医療人としての責任感・倫理観について重視する。 再三再四の指導にも講義態度に改善が見られない場合には、定期試験を待たずに単位を認めない場合もある。定期試験の成績によっては再試験が受けられない可能性がある。				

回 数	授業計画
第 1 回	講義概要、リハビリテーションの概念
第 2 回	リハビリテーション医学
第 3 回	リハビリテーション医学の基礎医学（運動学と機能解剖）
第 4 回	リハビリテーション医学の基礎医学（運動学と機能解剖）
第 5 回	リハビリテーション医学の基礎医学（障害学）
第 6 回	リハビリテーション医学の基礎医学（治療学）
第 7 回	リハ医学の評価と診断（A. 患者の捉え方、B. 身体計測）
第 8 回	リハ医学の評価と診断（C. 関節可動域測定法～）
第 9 回	リハ医学の評価と診断（D. E. F）
第 10 回	リハ医学の評価と診断（G. 小児の評価法、H. 協調性テスト）
第 11 回	リハ医学の評価と診断（H. 失認と失行の評価法、J. 心理評価 ）
第 12 回	リハ医学の評価と診断（K. L. M）
第 13 回	リハビリテーションの治療（A 理学療法-1 運動療法）
第 14 回	リハビリテーションの治療（A-2 物理療法）
第 15 回	リハビリテーションの治療（A-3 牽引、マッサージ他）

		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	リハビリテーション概論Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	鵜飼建志	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	リハビリテーションの一分野である「リハビリテーション医学」の概要を知る。 主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について学ぶ。教科書を中心に講義を進めるが、より理解を深め、臨床力をつけるための補足説明も加える。				
到達目標	リハビリテーション医学の概要、治療対象を知る。 主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について説明できる。 講義を通し柔道整復師にとって必要な医療人としての一般常識、専門知識の基礎、倫理観などを知る。				
成績評価	定期試験の結果 90%（小テストを行った場合はここに加味する） 出席状況 10% 受講態度が悪いなど将来の患者に不利益を生じる可能性が高い、と判断した場合は警告し、反省・改善が見られなければ減点対象とする。				
使用教材	リハビリテーション医学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	講義態度は、医療人としての責任感・倫理観について重視する。 再三再四の指導にも講義態度に改善が見られない場合には、定期試験を待たずに単位を認めない場合もある。定期試験の成績によっては再試験が受けられない可能性がある。				

回 数	授業計画
第 1 回	リハビリテーションの治療（B 作業療法）
第 2 回	リハビリテーションの治療（C 補装具-1 装具）
第 3 回	リハビリテーションの治療（C 補装具-2 義肢）
第 4 回	リハビリテーションの治療（C 補装具-3 移動補助具 -4 自助具他）
第 5 回	リハビリテーションの治療（D 言語治療）
第 6 回	リハ医学と関連職種、リハの実際 A 脳卒中-1 分類と特徴
第 7 回	リハの実際 A 脳卒中-2 障害-3 リハ
第 8 回	リハの実際 B 脊髄損傷
第 9 回	リハの実際 C 小児疾患 5-7, D 切断
第 10 回	リハの実際 D 切断 E 末梢神経損傷
第 11 回	リハの実際 F 関節リウマチ
第 12 回	リハの実際 G 整形外科疾患
第 13 回	リハの実際 H 心疾患 I 呼吸器疾患
第 14 回	リハの実際 J 老人のリハビリテーション
第 15 回	リハビリテーションと福祉

		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	一般臨床医学Ⅳ	科目の別	講 義	単位数	2
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	30
学修内容	柔道整復師として自分の力量と限界をわきまえながら、救急現場や他の場面で適切に病態把握をして対処する方法を確認する。損傷に類似した症状を示す疾患の病態把握と治療法・対処法などを学習する。				
到達目標	既に学んでいる知識を整理し定着させ応用できる能力を向上させることを目標にする。				
成績評価	小テストおよび授業態度などを総合して評価する。				
使用教材	関連する教科書および他の資料など。				
留意点	90分の授業で学生の集中力を維持するために、色々な内容を準備する。 また、国家試験が近づいているため内容によっては関連する過去問を取り上げながら可能な範囲で解説していく。				

回 数	授業計画
第1回	1 柔道整復術の適否を考える
第2回	2 損傷に類似した症状を示す疾患 (1)
第3回	3 損傷に類似した症状を示す疾患 (2)
第4回	4 損傷に類似した症状を示す疾患 (3)
第5回	5 血流障害を伴う損傷
第6回	6 末梢神経損傷を伴う損傷
第7回	7 脱臼骨折
第8回	8 外出血を伴う損傷
第9回	9 病的骨折および脱臼
第10回	10 意識障害を伴う損傷
第11回	11 脊髄症状のある損傷
第12回	12 呼吸運動障害を伴う損傷
第13回	13 内臓損傷の合併が疑われる損傷
第14回	14 高エネルギー外傷
第15回	15 まとめ

		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	衛生学・公衆衛生学 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	3 0
学修内容	疾病の発症に関わる様々な社会・環境要因についての理解を深め、疾病の一次予防、二次予防、三次予防に必要な諸条件の整備について考察・実践するために必要な知識を習得することを目標にする。				
到達目標	社会・環境要因は人の一生を軸にした見方と、人の生活、労働などの活動の場を軸にした見方で整理し、人の健康と環境との関係性を評価するための科学的理論である疫学的方法論や様々な行政資料の意義とその利用法について学び、データから新たな知見を見いだすことができる独創力を養う。				
成績評価	定期試験 50% 小テスト 2回 50% 参加度 授業に取り組む学習態度として遅刻・欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	衛生学・公衆衛生学：公益法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 国家試験過去問題集				
留意点	衛生学・公衆衛生学は学際的な基礎科目であり、人の健康増進に寄与するすべての専門職（医療系、栄養系、環境系）は資格の種類にかかわらず学んでおくことが要求される共通分野である。				

回 数	授業計画
第 1 回	衛生学・公衆衛生学の歴史
第 2 回	健康の概念
第 3 回	健康指標
第 4 回	疾病予防・健康管理
第 5 回	感染症
第 6 回	感染症予防対策
第 7 回	消毒法の分類と実践
第 8 回	第 1 回～第 7 回まとめ（第一回小テストおよび解説）
第 9 回	環境保健 1
第 10 回	環境保健 2
第 11 回	生活環境
第 12 回	食品衛生 1
第 13 回	食品衛生 2・廃棄物
第 14 回	母子保健
第 15 回	第 9 回～第 1 4 回まとめ（第二回小テストおよび解説）

		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	3 0
学修内容	疾病の発症に関わる様々な社会・環境要因についての理解を深め、疾病の一次予防、二次予防、三次予防に必要な諸条件の整備について考察・実践するために必要な知識を習得することを目標にする。				
到達目標	社会・環境要因は人の一生を軸にした見方と、人の生活、労働などの活動の場を軸にした見方で整理し、人の健康と環境との関係性を評価するための科学的理論である疫学的方法論や様々な行政資料の意義とその利用法について学び、データから新たな知見を見いだすことができる独創力を養う。				
成績評価	定期試験 50% 小テスト 2回 50% 参加度 授業に取り組む学習態度として遅刻・欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	衛生学・公衆衛生学：公益法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 国家試験過去問題集				
留意点	衛生学・公衆衛生学は学際的な基礎科目であり、人の健康増進に寄与するすべての専門職（医療系、栄養系、環境系）は資格の種類にかかわらず学んでおくことが要求される共通分野である。				

回 数	授業計画
第 1 回	学校保健
第 2 回	産業保健 1
第 3 回	産業保健 2
第 4 回	成人保健 1
第 5 回	成人保健 2・高齢者保健
第 6 回	精神保健
第 7 回	第 1 回～第 6 回まとめ（第一回小テストおよび解説）
第 8 回	地域保健 1
第 9 回	地域保健 2・国際保健
第 10 回	衛生行政
第 11 回	保健医療制度
第 12 回	疫学 1
第 13 回	疫学 2
第 14 回	第 8 回～第 13 回まとめ（第二回小テストおよび解説）
第 15 回	医の倫理と安全確保、まとめ、練習問題

		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	医療概論	科目の別	講 義	単位数	2
担当教員	遠山 治孝	実務経験	○・無	時間数	30
学修内容	医療人を志す者であるという自覚と、患者と接する際に必要となる最低限の倫理観やマナーを考える力を養う。				
到達目標	患者との信頼関係を築き、柔道整復業を全うするうえで「やっていいこと」と「やってはいけないこと」の分別がつけられる。				
成績評価	定期試験 100% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」 必要に応じてプリントを配布する				
留意点	30 時間のうち、15 時間は「職業倫理」に関する授業を行う。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション（学習方法、評価方法等）
第 2 回	職業倫理① 柔道整復師にもとめられる職業倫理
第 3 回	職業倫理② 柔道整復師の歴史と業務範囲
第 4 回	職業倫理③ 柔道整復の療養費制度
第 5 回	職業倫理④ 施術録の記載方法、保存義務
第 6 回	職業倫理⑤ 守秘義務、個人情報保護
第 7 回	職業倫理⑥ 各種ハラスメント
第 8 回	職業倫理⑦ インフォームドコンセント
第 9 回	職業倫理⑧ エビデンスに基づいた施術
第 10 回	職業倫理⑨ 患者の権利
第 11 回	柔道整復師の歴史：柔道整復師の沿革
第 12 回	西洋近代医学 ：現代医学の方法と課題
第 13 回	東洋医学 ：西洋医学との違いと課題
第 14 回	現代の医療制度 ：国民医療費等
第 15 回	国民の健康増進 ：健康増進のための総合的な推進（生活習慣病予防、肥満対策）

		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	関係法規	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	遠山 治孝	実務経験	有・無	時間数	3 0
学修内容	柔道整復師として必要な保険医療制度と関係法規について学ぶ。				
到達目標	柔道整復師に関連する法律の知識の習得。				
成績評価	定期試験 100% 参加度 欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 再試験の評価については、その試験のみで評価する。				
使用教材	関係法規：社団法人全国柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社				
留意点	関係法規は柔道整復師の身分を定める法律を含め学ぶため皆勤が望ましい。				

回 数	授業計画
第 1 回	法の意義、体系
第 2 回	患者の権利、医療過誤とリスクマネジメント
第 3 回	柔道整復師法：目的、定義
第 4 回	柔道整復師法：免許、国家試験
第 5 回	柔道整復師法：業務
第 6 回	柔道整復師法：施術所
第 7 回	柔道整復師法：雑則、罰則
第 8 回	医療関係法規
第 9 回	医療関係法規
第 10 回	医療法
第 11 回	医療法
第 12 回	社会福祉関係法規
第 13 回	社会保険関係法規
第 14 回	総復習 1
第 15 回	総復習 2

		対象学年	1 年生	学 期	前期
科目名	柔道 I A	科目の別	実技	単位数	1
担当教員	西川可一 今尾省司	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な柔道の素養（体力）を身につける。 礼法、受身等の基本的な知識技術を習得する。				
到達目標	柔道を行うための基本的な心構え、体力を身につける。 正しく柔道着を着用することができる。 正しい礼法・受身を身につける。				
成績評価	1、定期試験(60%) 2、小テスト(30%) 3、出席および授業態度(10%) 遅刻、欠席及び授業進行を妨げる迷惑行為に関して減点対象とする。				
使用教材	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂)				
留意点	礼法、受身、乱取等、日常動作とは異なる動作があるため皆勤が望ましい。 ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。 実技試験は認定実技審査の基本的な事項を基準に行う。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	後方受身・側方受身①
第 3 回	後方受身・側方受身② 前方受身
第 4 回	前方回転受身①
第 5 回	前方回転受身②
第 6 回	受身復習
第 7 回	大腰① 打ち込み
第 8 回	大腰② 投げ
第 9 回	体落① 打ち込み
第 10 回	体落② 投げ
第 11 回	投げ復習
第 12 回	投込①
第 13 回	投込②
第 14 回	前期授業の復習
第 15 回	前期授業の復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年生	学 期	後期
科目名	柔道 I B	科目の別	実技	単位数	1
担当教員	西川可一 今尾省司	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な柔道の素養（体力）を身につける。 礼法、受身等の知識技術を習得する。 約束乱取ができる技術体力を身につける。				
到達目標	礼法が自然にできる。 投げられても安全な受身ができる。 正しい投げ技（安全）で投げることができる。 柔道の歴史、意義を説明できる。				
成績評価	4、定期試験 (60%) 5、小テスト (30%) 6、出席および授業態度 (10%) 遅刻、欠席及び授業進行を妨げる迷惑行為に関して減点対象とする。				
使用教材	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂)				
留意点	礼法、受身、乱取等、日常動作とは異なる動作があるため皆勤が望ましい。 ピアス、指輪、付け爪等は危険なため禁止とする。 実技試験は認定実技審査を基準に行う。				

回 数	授業計画
第 1 回	前期復習
第 2 回	出足払い
第 3 回	出足払い②
第 4 回	小内刈り
第 5 回	小内刈り②
第 6 回	大内刈り
第 7 回	大内刈り②
第 8 回	連続技
第 9 回	連続技②
第 10 回	連続技③
第 11 回	約束乱取
第 12 回	約束乱取②
第 13 回	約束乱取③
第 14 回	後期授業の復習
第 15 回	後期授業の復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年生	学 期	前期
科目名	柔道ⅡA	科目の別	実技	単位数	1
担当教員	西川可一 今尾省司	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道の礼法、受身、寝技、立技の習熟 柔道の歴史を知る				
到達目標	認定実技採点基準に準じた礼法、受身を行うことができる。 十分な速度、勢いのある約束乱取、乱取を行うことができる。 柔道に関する歴史を口頭で説明することができる。				
成績評価	7、実技試験(70%) 8、筆記試験(20%) 9、出席および授業態度(10%) ・実技試験を受けることができない者は、別途口頭と筆記試験を行う。評価は総合的（通常試験を受けたものに不利益がないように）に判断する。 ・遅刻、欠席及び授業進行を妨げる迷惑行為に関して減点対象とする。				
使用教材	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂)				
留意点	礼法、受身等、日常動作とは異なる動作があるため皆勤が望ましい。 ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。 実技試験は認定実技審査の基本的な事項を基準に行う。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	1 年生の復習
第 3 回	1 年生の復習
第 4 回	技の講義 出足払い
第 5 回	技の講義 小内刈り
第 6 回	技の講義 大内刈り
第 7 回	技の講義 払い腰
第 8 回	技の講義 払い腰②
第 9 回	技の講義 背負投
第 10 回	技の講義 背負投②
第 11 回	立技:各自得意な技を見つける①
第 12 回	立技:各自得意な技を見つける②
第 13 回	柔道の歴史について講義
第 14 回	前期の授業の復習
第 15 回	前期の授業の復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年生	学 期	後期
科目名	柔道 II B	科目の別	実技	単位数	1
担当教員	西川可一 今尾省司	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道の礼法、受身、寝技、立技の習熟。 柔道の歴史・ルールを知る。 投の形の手技、腰技、足技を知る。				
到達目標	認定実技採点基準に準じた礼法、受身を行うことができる。 十分な速度、勢いのある約束乱取、乱取を行うことができる。 柔道について口頭で説明することができる。				
成績評価	10、 実技試験 (60%) 11、 口頭試験 (30%) 12、 出席および授業態度 (10%) ・実技試験を受けることができない者は、別途口頭と筆記試験を行う。評価は総合的（通常試験を受けたものに不利益がないように）に判断する。・遅刻、欠席及び授業進行を妨げる迷惑行為に関して減点対象とする。				
使用教材	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂) 投の形 DVD				
留意点	礼法、受身等、日常動作とは異なる動作があるため皆勤が望ましい。 ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。 実技試験は認定実技審査の基本的な事項を基準に行う。				

回 数	授業計画
第 1 回	習得済みの技の習熟① 打ち込み
第 2 回	習得済みの技の習熟② 移動打ち込み
第 3 回	習得済みの技の習熟③ 抑え込みの講義
第 4 回	習得済みの技の習熟④ 抑え込みの講義②
第 5 回	習得済みの技の習熟⑤ 抑え込みへの連携①
第 6 回	習得済みの技の習熟⑥ 抑え込みへの連携②
第 7 回	柔道のルール講義
第 8 回	柔道のルール講義②
第 9 回	柔道の審判について講義
第 10 回	審判動作実技
第 11 回	形の講義
第 12 回	浮落
第 13 回	浮落②
第 14 回	後期の授業の復習
第 15 回	後期の授業の復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年生	学 期	通 年
科目名	柔道Ⅲ	科目の別	実 技	単位数	1
担当教員	今尾省司 丹羽十堂	実務経験	有	時間数	45
学修内容	礼法、受身、約束乱取の習得、投の形(手技、腰技、足技)の習得、試験形式				
到達目標	認定実技審査合格レベルに到達する				
成績評価	1. 認定実技模擬審査(50%) 2. 3 回の小テスト(各 10% 計 30%) 3. 出席及び授業態度(20%) ※3 年間で筆記のみ合格し、実技試験に合格していない者は単位取得を認めない。				
使用教材	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂) 講道館柔道 DVD シリーズ第 3 作「投の形」(財団法人講道館)				
留意点	見学者は授業中にレポートを書いて提出することにより出席とすることもある				

回 数	授業計画	回 数	授業計画
第 1 回	礼法の確認、受身、寝技、立技	第 16 回	受身、約束乱取、投の形(足技)
第 2 回	受身、寝技、立技、投の形(浮落)	第 17 回	受身、投の形(足技)、小テスト③
第 3 回	受身、寝技、立技、投の形(背負投)	第 18 回	認定実技の流れ、練習
第 4 回	受身、寝技、立技、投の形(肩車)	第 19 回	認定実技の練習
第 5 回	受身、寝技、立技、投の形(手技)	第 20 回	認定実技模擬試験の反省、練習
第 6 回	受身、投の形(手技)、小テスト①	第 21 回	認定実技の練習
第 7 回	受身、寝技、立技、投の形(浮腰)	第 22 回	認定実技の練習
第 8 回	受身、寝技、立技、投の形(払腰)	第 23 回	認定実技最終確認、練習
第 9 回	受身、寝技、立技、投の形(釣込腰)		
第 10 回	受身、寝技、立技、投の形(腰技)		
第 11 回	受身、投の形(腰技)、小テスト②		
第 12 回	受身、寝技、立技、投の形(送足払)		
第 13 回	受身、寝技、立技、投の形(支釣込足)		
第 14 回	受身、約束乱取、投の形(内股)		
第 15 回	受身、約束乱取、投の形(足技)		

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	社会保障制度	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	遠山治孝	実務経験	有・無	時間数	1 5
学修内容	社会保障制度について学び、柔道整復師としての関わりを理解する				
到達目標	社会保障制度の概要が説明できる 柔道整復師における療養費の取り扱いについて説明できる				
成績評価	定期試験 100% 参加度 欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理				
留意点	社会保障制度は柔道整復師にとって必要な医療保険制度を学習するため皆勤が望ましい。				

回 数	授業計画
第 1 回	医療保険制度
第 2 回	医療保険制度と柔道整復師
第 3 回	柔道整復師業務における療養費
第 4 回	受領委任払いと償還払い
第 5 回	柔道整復療養費の支給対象
第 6 回	療養費制度の概要
第 7 回	療養費請求のケーススタディ
第 8 回	療養費請求のケーススタディ
第 9 回	
第 10 回	
第 11 回	
第 12 回	
第 13 回	
第 14 回	
第 15 回	

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	総論 I A	科目の別	学 科	単位数	1 単位
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	3 0 時間
学修内容	柔道整復師に必要な柔道整復理論、特に骨折総論の知識を修得する。 実際に臨床現場で骨折治療にあたるための基礎知識を得る。 2 年次の柔道整復理論（各論）を理解するための基礎知識を身につける。				
到達目標	骨の解剖学的特徴と骨折の定義、分類について説明することができる。 骨折の鑑別、合併症など臨床現場における判断基準について説明することができる。 骨折の治療、指導管理について説明することができる。 骨折修復過程を理解することで、徒手整復の原則、基本的方法を列挙できる。				
成績評価	定期試験によって 8 割、授業内に行う試験で 2 割その合計で評価を行う 欠席 1 回につき 5 点減点 但し、授業内容をレポートにて提出した場合はこの限りでない				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	ガイダンス（評価方法の説明）
第 2 回	骨の説明
第 3 回	運動器の概説
第 4 回	損傷時に加わる力（急性、亜急性を含む）
第 5 回	骨折概説 骨の形態と機能
第 6 回	骨損傷に加わる力
第 7 回	骨損傷の分類概説
第 8 回	骨の性状による分類
第 9 回	骨損傷に程度による分類
第 10 回	骨折線の方法による分類
第 11 回	骨折数による分類
第 12 回	骨折部と外創との交通の有無による分類
第 13 回	外力の働いた部位による分類・外力の働きによる分類
第 14 回	外力の働きによる分類
第 15 回	骨折の部位による分類

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	総論 I B	科目の別	学 科	単位数	1 単位
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	3 0 時間
学修内容	柔道整復師に必要な柔道整復理論、特に骨折総論の知識を修得する。 実際に臨床現場で骨折治療にあたるための基礎知識を得る。 2 年次の柔道整復理論（各論）を理解するための基礎知識を身につける。				
到達目標	骨の解剖学的特徴と骨折の定義、分類について説明することができる。 骨折の鑑別、合併症など臨床現場における判断基準について説明することができる。 骨折の治療、指導管理について説明することができる。 骨折修復過程を理解することで、徒手整復の原則、基本的方法を列挙できる。				
成績評価	定期試験によって 8 割、授業内に行う試験で 2 割その合計で評価を行う評価を行う 欠席 1 回につき 5 点減点 但し、授業内容をレポートにて提出した場合はこの限りでない				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	骨損傷の症状・局所症状
第 2 回	骨損傷の症状・全身症状
第 3 回	骨損傷の合併症概説
第 4 回	併発症について
第 5 回	続発症について
第 6 回	後遺症について 過剰仮骨形成 偽関節について
第 7 回	変形治癒 骨萎縮について
第 8 回	無腐性骨壊死 関節運動障害について
第 9 回	外傷性骨化性筋炎 フォルクマン拘縮について
第 10 回	小児骨損傷について
第 11 回	ソルターハリスについて 高齢者骨損傷について
第 12 回	骨折の治癒経過について 骨損傷の予後について
第 13 回	骨損傷の治癒に影響を与える因子について
第 14 回	骨折の整復法
第 15 回	痛みの基礎 評価

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学総論ⅡA	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な脱臼・軟部組織損傷の知識を習得する。				
到達目標	脱臼・軟部組織損傷の定義や分類について説明することができる。 関節部および軟部組織の損傷から修復までの過程を説明することができる。				
成績評価	定期試験 80% 小テスト 20% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	柔道整復学（理論編）（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 必要に応じて映像、スライド、レントゲン写真を用いる。				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション（学習方法、評価方法等）
第 2 回	基本姿勢と関節運動の表示
第 3 回	関節構成組織（総論）
第 4 回	関節構成組織（総論）
第 5 回	関節構成組織（総論）
第 6 回	関節構成組織（総論）
第 7 回	関節構成組織の損傷
第 8 回	関節構成組織の損傷
第 9 回	関節構成組織の損傷
第 10 回	関節構成組織の損傷
第 11 回	関節構成組織の損傷
第 12 回	関節構成組織の損傷
第 13 回	脱臼総論
第 14 回	脱臼総論
第 15 回	前期総復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学総論 II B	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	柔道整復師に必要な脱臼・軟部組織損傷の知識を習得する。				
到達目標	脱臼・軟部組織損傷の定義や分類について説明することができる。 関節部および軟部組織の損傷から修復までの過程を説明することができる。				
成績評価	定期試験 80% 小テスト 20% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	柔道整復学（理論編）（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 必要に応じて映像、スライド、レントゲン写真を用いる。				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	脱臼総論
第 2 回	脱臼総論
第 3 回	筋損傷
第 4 回	筋損傷、皮膚の損傷
第 5 回	末梢神経損傷
第 6 回	末梢神経損傷
第 7 回	血管損傷
第 8 回	血管損傷
第 9 回	診察（医療面接等）
第 10 回	診察（医療面接等）
第 11 回	診察（医療面接等）
第 12 回	治療法（施術における留意点等）
第 13 回	治療法（施術における留意点等）
第 14 回	治療法（施術における留意点等）
第 15 回	後期総復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学 総論ⅢA	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	○・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師が施術を行う際に必要な人体の構造と機能の知識を習得する。				
到達目標	内部環境の恒常性について専門用語を用いて説明できる。 神経系・内分泌系について専門用語を用いて説明できる。 骨格筋収縮について専門用語を用いて説明できる。				
成績評価	小テスト、レポート 【20%】 期末試験 【80%】				
使用教材	柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社）				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回 数	授業計画
第 1 回	内部環境の恒常性
第 2 回	物質の移動（拡散、浸透、ろ過）
第 3 回	体内の命令の伝達手段（神経系、内分泌系の比較）
第 4 回	骨格筋、心筋、神経の静止膜電位
第 5 回	骨格筋、心筋、神経の活動電位
第 6 回	感覚受容器の特徴
第 7 回	骨格筋細胞の構造
第 8 回	骨格筋収縮の仕組み
第 9 回	骨格筋の異常
第 10 回	神経系の特徴
第 11 回	神経伝導路（遠心性）
第 12 回	神経伝導路（求心性）
第 13 回	内部環境の恒常性に対する神経系の役割
第 14 回	内分泌系の特徴
第 15 回	内部環境の恒常性に対する内分泌系の役割

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学 総論Ⅲ B	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師が施術を行う際に必要な人体の構造と機能の知識を習得する。				
到達目標	各器官における神経系の役割について専門用語を用いて説明できる。 各器官における内分泌系の役割について専門用語を用いて説明できる。 人体を観察し骨・筋の名称について専門用語を用いて説明できる。				
成績評価	小テスト、レポート【20%】 期末試験【80%】				
使用教材	柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社）				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回 数	授業計画
第 1 回	循環器系に対する神経系の役割 【筋・骨格小テスト】
第 2 回	循環器系に対する内分泌系の役割 【筋・骨格小テスト】
第 3 回	呼吸器系に対する神経系の役割 【筋・骨格小テスト】
第 4 回	呼吸器系に対する内分泌系の役割 【筋・骨格小テスト】
第 5 回	消化器系に対する神経系の役割 【筋・骨格小テスト】
第 6 回	消化器系に対する内分泌系の役割 【筋・骨格小テスト】
第 7 回	泌尿器系に対する神経系の役割 【筋・骨格小テスト】
第 8 回	泌尿器系に対する内分泌系の役割 【筋・骨格小テスト】
第 9 回	体温調節における神経系の役割 【筋・骨格小テスト】
第 10 回	体温調節における内分泌系の役割 【筋・骨格小テスト】
第 11 回	肩甲帯・上腕の体表解剖
第 12 回	前腕・手部の体表解剖
第 13 回	股関節・大腿の体表解剖
第 14 回	膝関節・足部の体表解剖
第 15 回	エコーによる観察

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学 演習 I	科目の別	演 習	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	1 年で学習してきた人体の生理学的機能を総合的に理解する。 柔道整復師に必要な人体の機能について修得する。				
到達目標	柔道整復師に必要な生理学系の知識を総合的に習得する。				
成績評価	小テスト【50%】 期末試験【50%】				
使用教材	生理学（南江堂） 柔道整復学・理論編（南江堂）				
留意点	授業時間内に理解度を確認する時間を設定し、生徒の習熟度に合わせた授業進行を行う。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション、体液の生理学
第 2 回	細胞小器官等、生理学基礎
第 3 回	血液の生理学：血漿蛋白、細胞成分、血液型、血液凝固①
第 4 回	血液の生理学：血漿蛋白、細胞成分、血液型、血液凝固①
第 5 回	循環の生理学：心臓の機能・心電図、心臓のポンプ機能・血管系・血圧①
第 6 回	循環の生理学：心臓の機能・心電図、心臓のポンプ機能・血管系・血圧②
第 7 回	循環の生理学：心臓の機能・心電図、心臓のポンプ機能・血管系・血圧③
第 8 回	小テスト、問題演習
第 9 回	代謝の生理学：ビタミン・中間代謝・エネルギー代謝
第 10 回	体温の生理学：体温の変動・熱放散・熱産生
第 11 回	呼吸の生理学：呼吸器の構造・換気、酸素運搬・二酸化炭素運搬・呼吸の調節①
第 12 回	呼吸の生理学：呼吸器の構造・換気、酸素運搬・二酸化炭素運搬・呼吸の調節②
第 13 回	消化と吸収の生理学：消化器系の働き・消化液・消化吸収、肝臓と胆道系①
第 14 回	消化と吸収の生理学：消化器系の働き・消化液・消化吸収、肝臓と胆道系②
第 15 回	前期総復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学 演習ⅡA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な解剖学的知識を修得する。				
到達目標	運動器系・神経系・循環器系について、臨床症状の検討ができること。 内臓系について、柔道整復師国家試験に必要な知識を修得すること。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	解剖学（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・医歯薬出版） 柔道整復師国家試験の過去問題				
留意点	学習内容が多いため、講義ごとに復習すること。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	解剖学概説
第 3 回	運動器系（骨格系）
第 4 回	運動器系（筋系）
第 5 回	末梢神経系（脊髄神経）
第 6 回	循環器系（心臓）
第 7 回	循環器系（動脈系・静脈系、リンパ系、胎児循環）
第 8 回	消化器系（消化管）
第 9 回	消化器系（肝臓・胆嚢・膵臓）
第 10 回	呼吸器系
第 11 回	泌尿器系
第 12 回	生殖器系
第 13 回	内分泌系
第 14 回	中枢神経系
第 15 回	末梢神経系（脳神経）

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学 演習 II B	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な解剖学的知識を修得する。				
到達目標	運動器系・神経系・循環器系について、臨床症状の検討ができること。 柔道整復師国家試験に必要な知識を修得すること。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	解剖学（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・医歯薬出版） 柔道整復師国家試験の過去問題				
留意点	学習内容が多いため、講義ごとに復習すること。				

回 数	授業計画
第 1 回	感覚器系
第 2 回	体表解剖
第 3 回	運動器系の問題演習
第 4 回	循環器系の問題演習
第 5 回	消化器系の問題演習
第 6 回	呼吸器系の問題演習
第 7 回	泌尿器系の問題演習
第 8 回	生殖器系の問題演習
第 9 回	内分泌系の問題演習
第 10 回	中枢神経系の問題演習
第 11 回	末梢神経系の問題演習
第 12 回	感覚器系の問題演習
第 13 回	解剖学全般の問題演習①
第 14 回	解剖学全般の問題演習②
第 15 回	解剖学全般の問題演習③

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復 I 部		
		対象学年	2年	学 期	前 期
科目名	外傷保存療法	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	有・無	時間数	15
学修内容	・外傷に対する知識（主に第1段階について）を習得する。				
到達目標	・外傷の発生要因を理解し、それに対しての予防法を提案できるようにする ・目的を持った適切なアプローチができるようにする。				
成績評価	定期テスト100%				
使用教材	柔道整復学・理論編 改訂7版（南江堂） 柔道整復学・実技編 改訂2版（南江堂）				
留意点	臨床に出た際に直結する内容であるため、常に医療従事者としての行動・気配りを意識させ、現場に出た際の注意点を常に意識させながら授業を進める。				

回 数	授業計画
第1回	ガイダンス 柔道整復業務
第2回	骨折・脱臼・軟部組織損傷の施術
第3回	損傷の診察
第4回	患部の観察
第5回	第1次予防
第6回	徒手整復・治療法
第7回	治癒の判定・予後
第8回	総復習
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学各論 I A	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	柔道整復師に必要な柔道整復理論、頭部・顔面部損傷および鎖骨部損傷の知識を修得する。 臨床現場で施術にあたるための基礎知識を得る。				
到達目標	頭部、顔面部、鎖骨部の損傷の定義・分類・評価方法等について説明することができる。 頭部、顔面部、鎖骨部の治療法および指導管理について説明することができる。				
成績評価	定期試験 80% 小テスト 20% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	柔道整復学（理論編）（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 必要に応じて映像、スライド、レントゲン写真を用いる。				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション（学習方法、評価方法等）
第 2 回	頭部・顔面部の解剖と機能
第 3 回	頭部・顔面部の骨折①（頭蓋冠骨折の概説および合併症）
第 4 回	頭部・顔面部の骨折②（頭蓋底骨折の概説および合併症）
第 5 回	頭部・顔面部の骨折③（鼻骨・鼻軟骨骨折、上顎骨骨折、頬骨骨折）
第 6 回	頭部・顔面部の骨折④（下顎骨骨折）、顎関節前方脱臼（両側脱臼、片側脱臼）
第 7 回	顎関節脱臼（後方脱臼、側方脱臼）、頭部・顔面部の打撲
第 8 回	顎関節症と外傷性顎関節損傷（顎関節捻挫）
第 9 回	鎖骨部の解剖と機能
第 10 回	鎖骨骨折の概説（定型的転位、症状、合併症）
第 11 回	鎖骨骨折の固定法（セイヤー絆創膏固定、8 字帯固定法）
第 12 回	鎖骨脱臼①（胸鎖関節脱臼の概説および合併症）
第 13 回	鎖骨脱臼②（肩鎖関節脱臼の概説および合併症）
第 14 回	鎖骨脱臼③（肩鎖関節上方脱臼のテープ固定法）
第 15 回	総復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学各論 I B	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	上肢帯から続く上腕近位部～骨幹部の外傷の鑑別ができるだけの知識を身につける。 臨床現場で施術にあたるための基礎知識を得る。				
到達目標	柔道整復師に必要な柔道整復理論、上腕骨近位部、肩部損傷の知識を修得する。 臨床現場で施術にあたるための基礎知識を得る。				
成績評価	定期試験 80% 小テスト 20% 無断欠席および授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	柔道整復学（理論編）（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 必要に応じて映像、スライド、レントゲン写真を用いる。				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	肩関節部の損傷① 解剖および機能
第 2 回	肩関節部の損傷② 肩甲骨骨折の概説および合併症
第 3 回	肩関節部の損傷③ 上腕骨近位部骨折(解剖頸骨折、外科頸骨折)の概説および合併症
第 4 回	肩関節部の損傷④ 肩関節前方脱臼の概説と整復法・固定法
第 5 回	肩関節部の損傷⑤ 肩関節前方脱臼の固定法（局所副子固定）
第 6 回	肩関節部の損傷⑥ 肩関節後方脱臼・下方脱臼の概説および合併症
第 7 回	肩関節部の軟部組織損傷① 腱板断裂、上腕二頭筋長頭腱損傷
第 8 回	肩関節部の軟部組織損傷② スポーツに伴う損傷
第 9 回	肩関節部の軟部組織損傷③ スポーツに伴う損傷
第 10 回	肩関節部の軟部組織損傷④ 動揺性肩関節、末梢神経障害、その他の疾患
第 11 回	上腕部の損傷① 解剖および機能、上腕骨外科頸骨折の概説および合併症
第 12 回	上腕部の損傷② 上腕骨外科頸骨折の概説および合併症
第 13 回	上腕部の損傷③ 上腕骨外科頸骨折の整復法・固定法、上腕骨骨幹部骨折の概説
第 14 回	上腕部の損傷④ 上腕骨骨幹部骨折の概説、整復法・固定法（ミッドドルフ三角副子）
第 15 回	上腕部の損傷⑤ 上腕骨骨幹部骨折の整復法・固定法（ミッドドルフ三角副子）

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	前期
科目名	柔道整復学 各論ⅡA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	30
学修内容	肘関節部から指先までの骨折・脱臼・軟部組織損傷に対して、発生機序・整復法・固定法を理解し修得する				
到達目標	各損傷を理解し説明できる 各部位における鑑別診断とその指導管理について説明できる				
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	柔道整復学【理論編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 柔道整復学【実技編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 標準整形外科学（南江堂）				
留意点	肘関節部から指先までの損傷は臨床でも遭遇する機会が多いので、症状の理解から 施術がイメージできることが望まれる ＊神経損傷については各論ⅠA・ⅠBで行う				

回 数	授業計画
第 1 回	肘関節部の機能解剖
第 2 回	上腕骨遠位部の骨折（顆上骨折）
第 3 回	上腕骨遠位部の骨折（外顆骨折、内側上顆骨折）
第 4 回	前腕骨近位部の骨折（橈骨近位端骨折、肘頭骨折）
第 5 回	肘関節脱臼（前腕両骨脱臼）
第 6 回	肘関節脱臼（前腕両骨後方脱臼、整復法、固定法）実技含む
第 7 回	肘関節脱臼（橈骨頭単独脱臼、肘内障）実技含む
第 8 回	肘関節部の軟部組織損傷（靱帯損傷、野球肘、テニス肘など）
第 9 回	前腕部の機能解剖
第 10 回	前腕骨骨幹部骨折（橈骨骨幹部骨折、ガレアジ骨折、尺骨骨幹部骨折）
第 11 回	前腕骨幹部骨折（モンテギア骨折、前腕両骨骨幹部骨折）
第 12 回	前腕部の軟部組織損傷（コンパートメント症候群、腱交叉症候群）
第 13 回	手関節部の機能解剖
第 14 回	前腕遠位部の骨折（コーレス骨折、スミス骨折）
第 15 回	前腕遠位部の骨折（バートン骨折、ショーファー骨折、骨端線離開）

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	後期
科目名	柔道整復学 各論ⅡB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	30
学修内容	肘関節部から指先までの骨折・脱臼・軟部組織損傷に対して、発生機序・整復法・固定法を理解し修得する				
到達目標	各損傷を理解し説明できる 各部位における鑑別診断とその指導管理について説明できる				
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	柔道整復学【理論編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 柔道整復学【実技編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 標準整形外科学（南江堂）				
留意点	肘関節部から指先までの損傷は臨床でも遭遇する機会が多いので、症状の理解から 施術がイメージできることが望まれる ＊神経損傷については各論ⅠA・ⅠBで行う				

回 数	授業計画
第 1 回	前腕遠位部の骨折（コーレス骨折の整復法、固定法）実技含む
第 2 回	手根骨骨折（舟状骨骨折）
第 3 回	手根骨骨折（三角骨、有鉤骨、豆状骨、その他の骨折）
第 4 回	手関節脱臼（遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼）
第 5 回	手関節脱臼（月状骨および月状骨周囲脱臼）
第 6 回	手関節部の軟部組織損傷（TFCC、ド・ケルバン病、その他）
第 7 回	手指部の機能解剖
第 8 回	中手骨骨折（骨頭骨折、頸部骨折、骨幹部骨折、基部骨折）
第 9 回	手根中手関節脱臼（第 1 CM、第 2 ～ 5 CM 関節）
第 10 回	指骨骨折（基節骨骨折）
第 11 回	指骨骨折（中節骨骨折）
第 12 回	指骨骨折（末節骨骨折）
第 13 回	中手指節間脱臼（第 1 MP、第 2 ～ 5 MP 関節）
第 14 回	指節間関節脱臼（PIP, DIP 関節）
第 15 回	腱・靱帯の損傷、手指部の変形疾患

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学 演習ⅢA	科目の別	演 習	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	○・無	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な生理学的知識を修得する。				
到達目標	循環器系・呼吸器系・体温調節について臨床症状の検討ができること。 血液・消化・代謝について柔道整復師国家試験に必要な知識を修得すること。				
成績評価	小テスト【50%】 期末試験【50%】				
使用教材	柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社）				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回 数	授業計画
第 1 回	柔道整復師に必要な生理学基礎
第 2 回	柔道整復師に必要な生理学基礎
第 3 回	柔道整復師に必要な血液の機能
第 4 回	柔道整復師に必要な血液の機能
第 5 回	柔道整復師に必要な循環器の機能
第 6 回	柔道整復師に必要な循環器の機能
第 7 回	柔道整復師に必要な呼吸器の機能
第 8 回	柔道整復師に必要な呼吸器の機能
第 9 回	柔道整復師に必要な消化器の機能
第 10 回	柔道整復師に必要な消化器の機能
第 11 回	柔道整復師に必要な代謝の機能
第 12 回	柔道整復師に必要な代謝の機能
第 13 回	柔道整復師に必要な体温とその調節
第 14 回	柔道整復師に必要な体温とその調節
第 15 回	柔道整復師に必要な泌尿器の機能

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学 演習ⅢB	科目の別	演 習	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	○ 有 ・ 無	時間数	3 0
学修内容	柔道整復に必要な生理学的知識を修得する。				
到達目標	筋骨格系・神経系・感覚系について臨床症状の検討ができること。 泌尿器系・内分泌系・生殖系について柔道整復師国家試験に必要な知識を修得すること。				
成績評価	小テスト【50%】 期末試験【50%】				
使用教材	柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社）				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回 数	授業計画
第 1 回	柔道整復師に必要な泌尿器の機能
第 2 回	柔道整復師に必要な内分泌の機能
第 3 回	柔道整復師に必要な内分泌の機能
第 4 回	柔道整復師に必要な生殖器の機能
第 5 回	柔道整復師に必要な生殖器の機能
第 6 回	柔道整復師に必要な骨の機能
第 7 回	柔道整復師に必要な骨の機能
第 8 回	柔道整復師に必要な体液の機能
第 9 回	柔道整復師に必要な体液の機能
第 10 回	柔道整復師に必要な神経の機能
第 11 回	柔道整復師に必要な神経の機能
第 12 回	柔道整復師に必要な筋肉の機能
第 13 回	柔道整復師に必要な筋肉の機能
第 14 回	柔道整復師に必要な感覚器の機能
第 15 回	柔道整復師に必要な感覚器の機能

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学 各論IVA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復学における膝関節周囲の疾患について、疫学・発生機序・症状・治療法の理論を修得する。				
到達目標	柔道整復学における膝関節周囲の疾患について正しく理解し、説明できること。				
成績評価	中間試験 30% 期末試験 70%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 標準整形外科学（南江堂）				
留意点	出席を常とし、こまめな復習を心がけること。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション・膝関節の解剖と機能
第 2 回	膝関節部の軟部組織損傷（半月板損傷）
第 3 回	膝関節部の軟部組織損傷（側副靱帯損傷）
第 4 回	膝関節部の軟部組織損傷（十字靱帯損傷）
第 5 回	膝関節部の軟部組織損傷の検査法実技
第 6 回	膝関節側副靱帯損傷の X サポートテープ実技とエコー観察
第 7 回	中間試験（膝関節部の軟部組織損傷・検査法および固定法実技を含む）
第 8 回	大腿骨遠位端部骨折
第 9 回	膝蓋骨骨折・膝蓋骨脱臼・膝関節脱臼
第 10 回	下腿骨近位端部骨折
第 11 回	発育期の膝関節障害
第 12 回	膝関節のスポーツ障害
第 13 回	膝蓋大腿関節障害
第 14 回	膝周囲の関節包、滑液包の異常・神経の障害
第 15 回	注意すべき疾患（骨肉腫・関節リウマチなど）

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学 各論IVB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復学における下腿から足部の疾患について、疫学・発生機序・症状・治療法の理論を修得する。				
到達目標	柔道整復学における下腿から足部の疾患について正しく理解し、説明できること。				
成績評価	中間試験 30% 期末試験 70%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 標準整形外科学（南江堂）				
留意点	出席を常とし、こまめな復習を心がけること。				

回 数	授業計画
第 1 回	下腿部の解剖と機能
第 2 回	下腿骨骨幹部骨折（クラーメル副子固定）
第 3 回	下腿骨果上骨折・下腿骨疲労骨折
第 4 回	アキレス腱（周囲）炎・アキレス腱断裂（クラーメル副子固定）
第 5 回	下腿部のスポーツ障害
第 6 回	コンパートメント症候群
第 7 回	足関節の解剖と機能
第 8 回	果部骨折・足関節部の脱臼
第 9 回	足根骨骨折（距骨・踵骨）
第 10 回	足関節捻挫（局所副子固定）
第 11 回	足関節捻挫の類症鑑別
第 12 回	足関節のテーピング（バスケットウィーブ・フィギュアエイト・ヒールロック）
第 13 回	足・足趾部の解剖と機能
第 14 回	足根骨骨折（舟状骨・立方骨・楔状骨）・中足骨骨折
第 15 回	趾骨の骨折・足根部の脱臼と軟部組織損傷

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学 各論VA	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識を習得する。				
到達目標	各分野の損傷の特徴を捉え、説明することができる。 総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部損傷部の内容を説明することが出来る。				
成績評価	中間試験【50%】 定期試験【50%】				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	1. 2 年次で学修した内容の復習を行い、国家試験での得点力を獲得するための授業であるため、積極的に質問・発言をすることが望ましい。				

回 数	授業計画
第 1 回	鎖骨骨折
第 2 回	肩鎖関節脱臼・肩甲骨骨折
第 3 回	上腕骨外科頸骨折
第 4 回	肩関節脱臼
第 5 回	肩部軟部組織損傷
第 6 回	第 1 回中間テスト
第 7 回	上腕骨骨幹部骨折・上腕骨顆上骨折
第 8 回	上腕骨外顆骨折・上腕骨内側上顆骨折
第 9 回	肘関節脱臼・肘内障
第 10 回	肘部軟部組織損傷
第 11 回	第 2 回中間テスト
第 12 回	前腕骨骨幹部骨折
第 13 回	前腕軟部組織損傷
第 14 回	橈骨遠位端部骨折
第 15 回	手根骨骨折、総復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学 各論VB	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識を習得する。				
到達目標	各分野の損傷の特徴を捉え、説明することができる。 総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部損傷部の内容を説明することが出来る。				
成績評価	中間試験【50%】 定期試験【50%】				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	1．2 年次で学修した内容の復習を行い、国家試験での得点力を獲得するための授業であるため、積極的に質問・発言をすることが望ましい。				

回 数	授業計画
第 1 回	骨盤部骨折
第 2 回	股関節脱臼
第 3 回	大腿骨頸部骨折
第 4 回	大腿骨骨幹部骨折
第 5 回	股関節軟部組織損傷
第 6 回	大腿部軟部組織損傷
第 7 回	第 1 回中間テスト
第 8 回	膝部骨折
第 9 回	膝関節軟部組織損傷
第 10 回	膝関節軟部組織損傷
第 11 回	下腿骨骨幹部骨折
第 12 回	下腿軟部組織損傷
第 13 回	第 2 回中間テスト
第 14 回	足部骨折
第 15 回	足部脱臼、総復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年生	学 期	後期
科目名	柔道整復学 各論VI	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	遠山 治孝	実務経験	有	時間数	60
学修内容	柔道整復師に必要な「法規」「社会保障制度」「職業倫理」「柔道の理念」「解剖学」「生理学」「病理学」「一般臨床医学」「柔道整復学」の知識を修得する				
到達目標	「法規」「社会保障制度」「職業倫理」「柔道の理念」「解剖学」「生理学」「病理学」「一般臨床医学」「柔道整復学」の国家試験問題で 80%以上正解できる				
成績評価	第 2 回模擬試験または授業内で実施する試験で評価する。(定期試験・再試験は行わない) 合格基準：次のいずれかを満たすもの ①第 2 回模擬試験で必修問題 8 割以上かつ一般問題 6 割以上の得点 ②授業内で 100 点満点の試験を 2 度実施し得点合計が 140 点以上の得点 ※授業内で行う試験の出題割合は「必修科目×25」「解剖学×15」「生理学×15」「病理学×10」「一般臨床×15」「柔整理論×20」とする(例：校内模試の過去問から抜粋) 評価：上記①または②の点数を 100 点換算し、いずれか良い点数とする。合格基準を満たさず、換算点が 60 点以上となるものはすべて「59 点」とする。				
使用教材	教科書：柔道整復学理論編・実技編 関係法規 社会保障制度 解剖学 生理学 病理学 一般臨床医学				
留意点	学習の優先順位を意識し知識を一つ一つ積み上げて下さい。				

回 数	授業計画	回 数	授業計画
第 1 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 16 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 2 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 17 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 3 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 18 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 4 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 19 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 5 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 20 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 6 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 21 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 7 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 22 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 8 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 23 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 9 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 24 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 10 回	第 1 回 授業内テスト	第 25 回	第 2 回 授業内テスト
第 11 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 26 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 12 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 27 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 13 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 28 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 14 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 29 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 15 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 30 回	教科書、配布資料を基に学習する

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学 各論Ⅲ A	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	太田康晴	実務経験	○ 無	時間数	3 0
学修内容	柔道整復師に必要な柔道整復理論と実技の知識や技術を修得する。 骨折・脱臼・軟部組織損傷に関して系統的に学習する。				
到達目標	体幹部の骨折・脱臼の定義、分類について説明することができる。 骨折・脱臼の鑑別、合併症、軟部組織損傷など臨床現場における判断基準について説明することができる。 骨折・脱臼・軟部組織損傷の症状、治療法、指導管理について説明することができる。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	柔道整復学（理論編）（実技編）：南江堂				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回 数	授業計画
第 1 回	肋骨骨折、肋軟骨骨折
第 2 回	肋骨骨折の整復法・固定法
第 3 回	大腿部の軟部組織損傷
第 4 回	大腿部の軟部組織損傷の検査法
第 5 回	頸部の構造
第 6 回	外傷性頸部症候群（むち打ち損傷）
第 7 回	胸郭出口症候群、寝違え
第 8 回	頸部の検査法（ジャクソンテスト、スパーリングテスト、肩引き下げテスト）
第 9 回	頸部の検査法（イートンテスト、アドソンテスト、モーレイテスト、エデンテスト ライトテスト、ルーステスト）
第 10 回	股関節の構造
第 11 回	鼠径部痛症候群、股関節唇損傷
第 12 回	弾発股（ばね股）
第 13 回	梨状筋症候群
第 14 回	股関節外転位拘縮・内転位拘縮・屈曲位拘縮
第 15 回	大腿骨頭すべり症、ペルテス病

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学 各論Ⅲ B	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	○・無	時間数	3 0
学修内容	柔道整復師に必要な柔道整復理論と実技の知識や技術を修得する。 骨折・脱臼・軟部組織損傷に関して系統的に学習する。				
到達目標	体幹部の骨折・脱臼の定義、分類について説明することができる。 骨折・脱臼の鑑別、合併症、軟部組織損傷など臨床現場における判断基準について説明することができる。 骨折・脱臼・軟部組織損傷の症状、治療法、指導管理について説明することができる。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	柔道整復学（理論編）（実技編）：南江堂				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回 数	授業計画
第 1 回	仙腸関節の検査法（ゲンスレンテスト、ニュートンテスト、）
第 2 回	股関節の検査法（アリステスト、ドレーマン徴候、パトリックテスト）
第 3 回	胸骨骨折、骨盤部の構造
第 4 回	骨盤骨折（骨盤骨単独骨折、骨盤輪骨折）
第 5 回	股関節脱臼
第 6 回	大腿骨骨頭部骨折、大腿骨頸部骨折
第 7 回	大腿骨転子部骨折、大腿骨転子下骨折
第 8 回	大腿骨骨幹部骨折
第 9 回	頸椎の骨折（上位頸椎骨折、中・下頸椎骨折）
第 10 回	胸椎の骨折（上部胸椎棘突起骨折、胸椎の椎体骨折）
第 11 回	腰椎の骨折（下位腰椎圧迫骨折、チャンス骨折、椎体破裂骨折、肋骨突起骨折）
第 12 回	頸椎・胸椎・腰椎脱臼
第 13 回	胸背部の軟部組織損傷
第 14 回	腰部の軟部組織損傷
第 15 回	頸部・仙腸関節・股関節の検査法

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	演習Ⅳ	科目の別	演 習	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	整形外科、運動学、リハビリテーション医学の各教科を復習し、国家試験合格の一助とする。				
到達目標	一般問題 60%以上の得点力を身につけさせる。また、解剖学、生理学、柔道整復学などの他教科とリンクした勉強方法を習得させる。				
成績評価	定期試験 100% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	「運動学」医歯薬出版株式会社 「整形外科」監修：南江堂 「リハビリテーション医学」監修：南江堂				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	整形外科①
第 2 回	整形外科②
第 3 回	整形外科③
第 4 回	整形外科④
第 5 回	整形外科⑤
第 6 回	整形外科⑥
第 7 回	整形外科⑦
第 8 回	整形外科⑧
第 9 回	リハビリテーション医学①
第 10 回	リハビリテーション医学②
第 11 回	リハビリテーション医学③
第 12 回	運動学①
第 13 回	運動学②
第 14 回	運動学③
第 15 回	運動学④

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	物理療法	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	○有・無	時間数	1 5
学修内容	・実際の現場で行われる物理療法の知識を習得し、疾病に合わせた物理療法の選択や、アプローチ方法を習得する。				
到達目標	・物理療法の効果を患者に説明できるようにする。 ・目的を持った適切なアプローチができるようにする。				
成績評価	定期テスト 100%				
使用教材	柔道整復学・理論編 改訂 7 版（南江堂） 最新物理療法の臨床適応（文光堂） 自校にある物理療法機器				
留意点	臨床に出た際に直結する内容であるため、常に医療従事者としての行動・気配りを意識させ、現場に出た際の注意点を常に意識させながら授業を進める。				

回 数	授業計画
第 1 回	物理療法の分類・安全対策
第 2 回	痛みの発生メカニズム
第 3 回	低周波電気刺激療法（効果・使用上の注意）
第 4 回	中周波電流療法（効果・使用上の注意）
第 5 回	温熱療法（適応と効果・使用上の注意と禁忌）
第 6 回	変換熱療法（適応と効果・使用上の注意と禁忌）
第 7 回	寒冷療法（適応と効果・使用上の注意と禁忌）
第 8 回	牽引療法（適応と効果・使用上の注意と禁忌）
第 9 回	
第 10 回	
第 11 回	
第 12 回	
第 13 回	
第 14 回	
第 15 回	

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	臨床的判定	科目の別	講 義	単位数	2
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復術の適応の判断に必要な外傷に類似する疾患と、外傷の危険な兆候の基礎知識を習得する。 様々な医用画像機器の基本的な原理と、画像の特性や判断における要点を習得する。				
到達目標	臨床所見から施術の適否を的確に判断することができる。 各画像の特徴を理解し説明することができる。 超音波画像装置の基本的な操作ができる。				
成績評価	定期試験 80% 小テスト 20%				
使用教材	施術の適応と医用画像の理解（：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂）				
留意点	講義内容が正しく理解されているか確認するため、講義内で小テストを実施する。 小テストは評価に含まれるため、出席を常とするよう注意する。				

回 数	授業計画
第 1 回	授業内容、評価方法説明、柔道整復術の適否
第 2 回	損傷に類似した症状を示す疾患
第 3 回	血流障害を伴う損傷
第 4 回	末梢神経損傷を伴う損傷
第 5 回	脱臼骨折・病的骨折および脱臼
第 6 回	外出血を伴う損傷
第 7 回	意識障害を伴う損傷
第 8 回	脊髄損傷のある損傷
第 9 回	呼吸運動障害を伴う損傷
第 10 回	内臓損傷の合併が疑われる損傷・高エネルギー外傷
第 11 回	医用画像の理解 放射線
第 12 回	X 線 CT・磁気共鳴検査
第 13 回	超音波画像装置
第 14 回	超音波画像装置 実技
第 15 回	超音波画像装置 実技

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	実技 I A	科目の別	実 習	単位数	1
担当教員	遠山 治孝、高橋 亮	実務経験	○・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な包帯固定術・後療法の基礎的知識と技術を習得させる。				
到達目標	上肢・下肢の基本包帯法の名称と巻き方を理解し、説明することができる。 各部位に適切な包帯を手際よくきれいに巻くことができる。				
成績評価	定期試験 100% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。服装についても減点対象とする。 服装については授業開始後に通達する。				
使用教材	包帯固定学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	医療人としてふさわしい身だしなみ、態度を身につけてもらうため学校指定の白衣と上履きの着用を厳しく指導する。 包帯を巻く練習回数が重要であり、授業以外でも学生同士で積極的に練習し、また自宅などで家族の体を借りて反復練習するよう指導する。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション 基本包帯法
第 2 回	手部麦穂帯
第 3 回	前腕部折転帯
第 4 回	肘部亀甲帯（離開、集合） 上腕部折転帯
第 5 回	上肢基本包帯法復習
第 6 回	上肢基本包帯法復習
第 7 回	上肢の後療法
第 8 回	肩関節基本包帯法
第 9 回	肩関節麦穂帯
第 10 回	肩関節麦穂帯
第 11 回	肩関節の後療法
第 12 回	足部麦穂帯 踵部亀甲帯
第 13 回	下腿部折転帯
第 14 回	膝関節亀甲帯 大腿部折転帯
第 15 回	下肢の後療法

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	実技 I B	科目の別	実 習	単位数	1
担当教員	遠山 治孝、高橋 亮	実務経験	○・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な包帯固定術・後療法の基礎的知識と技術を習得させる。				
到達目標	金属副子を用いた上肢・下肢の固定ができる。 冠名包帯法の名称と巻き方を理解し、説明することができる。				
成績評価	定期試験 100% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。服装についても減点対象とする。 服装については授業開始後に通達する。				
使用教材	包帯固定学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	医療人としてふさわしい身だしなみ、態度を身につけてもらうため学校指定の白衣と上履きの着用を厳しく指導する。 包帯を巻く練習回数が重要であり、授業以外でも学生同士で積極的に練習し、また自宅などで家族の体を借りて反復練習するよう指導する。				

回 数	授業計画
第 1 回	上肢の副子固定
第 2 回	上肢の副子固定
第 3 回	上肢の副子固定
第 4 回	下肢の副子固定
第 5 回	下肢の副子固定
第 6 回	下肢の副子固定
第 7 回	下肢の後療法
第 8 回	デゾー包帯、ヴェルポー包帯
第 9 回	デゾー包帯、ジュール包帯
第 10 回	冠名包帯法復習
第 11 回	冠名包帯法復習
第 12 回	肩甲帯部の後療法
第 13 回	体幹部の後療法
第 14 回	手指・足趾の包帯固定
第 15 回	晒固定（胸部、腰部）

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	実技ⅡA	科目の別	実 習	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔 福岡 治	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	臨床現場で使用する指導方法を習得する。				
到達目標	・対象者の状態に合わせた運動指導を選択できるようにする。				
成績評価	定期試験 1 0 0 %				
使用教材	・アスレチックトレーナー専門科目テキスト（文光堂） ・ストレングス&コンディショニング（大修館書店）				
留意点	身体を動かす機会が多くなるため、事故防止に留意する。 実技を通じて、医療従事者の素養の習得を目指す。 出席を常とする。				

回 数	授業計画
第 1 回	運動指導の役割
第 2 回	運動指導の効果測定と評価
第 3 回	運動指導の PDCA サイクル
第 4 回	運動指導の注意事項及び計画と実践
第 5 回	運動指導の注意事項及び計画と実践
第 6 回	対象者の基礎的状态に対応した運動指導
第 7 回	ウォームアップとクールダウンについて
第 8 回	ウォームアップとクールダウンの実践
第 9 回	運動指導の実際（パワー向上を目的とした運動計画と実践）
第 10 回	運動指導の実際（パワー向上を目的とした運動計画と実践）
第 11 回	運動指導の実際（有酸素運動及び無酸素運動の計画と実践）
第 12 回	運動指導の実際（有酸素運動及び無酸素運動の計画と実践）
第 13 回	運動指導の実践（スピード向上を目的とした運動計画と実践）
第 14 回	運動指導の実践（スピード向上を目的とした運動計画と実践）
第 15 回	運動指導を行うにあたってのリスク管理

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	実技ⅡB	科目の別	実 習	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔 福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	臨床現場で使用する指導方法を習得する。				
到達目標	・対象者の状態に合わせた運動指導を選択できるようにする。				
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	・アスレチックトレーナー専門科目テキスト（文光堂） ・ストレングス&コンディショニング（大修館書店）				
留意点	身体を動かす機会が多くなるため、事故防止に留意する。 実技を通じて、医療従事者の素養の習得を目指す。 出席を常とする。				

回 数	授業計画
第 1 回	運動指導の為の倫理及び活用実践
第 2 回	傷病者評価
第 3 回	BLS (Basic Life Support)
第 4 回	固定法（包帯・テーピング等）
第 5 回	固定法（包帯・テーピング等）
第 6 回	固定法（包帯・テーピング等）
第 7 回	固定法（包帯・テーピング等）
第 8 回	固定法（包帯・テーピング等）
第 9 回	固定法（包帯・テーピング等）
第 10 回	固定法（包帯・テーピング等）
第 11 回	固定法（包帯・テーピング等）
第 12 回	固定法（包帯・テーピング等）
第 13 回	固定法（包帯・テーピング等）
第 14 回	固定法（包帯・テーピング等）
第 15 回	総復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	実技ⅢA	科目の別	実 習	単位数	1 単位
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	3 0 時間
学修内容	職業としての柔道整復師の理解する 柔道整復師の業務内容を理解する 業を行うのに必要な知識を確認し修得する				
到達目標	柔道整復師の業務内容を説明できる 柔道整復師の業を行うのに必要な知識と技術を修得できる				
成績評価	授業内容に即した課題提出 授業内に行う実技を評価				
使用教材	柔道整復学・理論編、実技編（南江堂） 病気がみえる 11「運動器。整形外科」（メディックメディア）				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	職業としての柔道整復術を考える
第 2 回	専門職としての柔道整復術を考える
第 3 回	健康保険、労災保険、自賠責保険、自由診療について
第 4 回	接骨院の業務内容概説
第 5 回	予診表について（中和式、英語版を参考に）
第 6 回	診察の流れと施術録の記入について
第 7 回	紹介状、依頼状、情報提供について
第 8 回	問診（医療面接）について
第 9 回	主訴、現病歴、既往歴について
第 10 回	服薬、アレルギー歴、家族歴、生活歴について
第 11 回	疼痛の問診について①
第 12 回	疼痛の問診について②
第 13 回	痺れの問診について①
第 14 回	痺れの問診について②
第 15 回	総合復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	実技ⅢB	科目の別	実 習	単位数	1 単位
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	3 0 時間
学修内容	職業としての柔道整復師の理解する 柔道整復師の業務内容を理解する 業を行うのに必要な知識を確認し修得する				
到達目標	柔道整復師の業務内容を説明できる 柔道整復師の業を行うのに必要な知識と技術を修得できる				
成績評価	授業内容に即した課題提出 授業内に行う実技を評価				
使用教材	柔道整復学・理論編、実技編（南江堂） 病気がみえる 11「運動器。整形外科」（メディックメディア）				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	徒手検査法について
第 2 回	症状の評価について
第 3 回	骨、骨格筋、神経症状の差異について
第 4 回	ニュートラルポジションの理解
第 5 回	下半身の評価①
第 6 回	下半身の評価②
第 7 回	上半身の評価①
第 8 回	上半身の評価②
第 9 回	指導管理について（姿勢・セルフストレッチ）
第 10 回	テーピング実技①
第 11 回	テーピング実技②
第 12 回	パートナーストレッチ①
第 13 回	パートナーストレッチ②
第 14 回	総合復習
第 15 回	総合復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	実技IVA	科目の別	実 習	単位数	1
担当教員	伊藤和己	実務経験	○・無	時間数	30
学修内容	顎関節・上肢に於いて、臨床上よく遭遇する損傷・障害の判定・手技操作・固定法を修得する 前腕から手・指部の損傷に於いての整と復				
到達目標	学生が卒業後、臨床現場で活躍できる知識および技能を身につける 患者の立場になり接するようになれる柔道整復師となる 最低限の整復・固定が出来、復させる（手技操作）事が出来るようになる				
成績評価	1. 定期実技試験 2. 授業態度および小実技テスト（理解などを総合的な評価） 3. 出席日数 ※配点比率は、1＝60%、2＝40%、3＝欠席1時間につき－1点とする 内職も－1点とし3回以降は毎回－5点とする				
使用教材	・柔道整復学 理論編、実技編、包帯固定学 ・映像・画像（含むインターネット）				
留意点	卒業後の臨床に役立つように身近な症例の実技とコツを伝授、また柔整手技の重要性を理解させたい 患者さんの利益を最優先に				

回 数	授業計画
第1回	オリエンテーション 顎のおさらい
第2回	顎部の外傷 整と復
第3回	肩部の外傷 鎖骨骨折 整と復
第4回	肩部の外傷 鎖骨骨折整と復
第5回	肩部の外傷 肩鎖関節脱臼 整と復
第6回	肩部の外傷 肩関節脱臼 整と復
第7回	肩部の外傷 機能障害に対して
第8回	上腕部の外傷 整と復
第9回	上腕部の外傷 整と復
第10回	上腕部の外傷 整と復
第11回	肘部の外傷 整と復
第12回	肘部の外傷 整と復
第13回	上腕～肘部の外傷 機能障害に対して
第14回	実技試験
第15回	前期総評

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	実技IVB	科目の別	実 習	単位数	1
担当教員	伊藤和己	実務経験	○・無	時間数	30
学修内容	上肢に於いて、臨床上よく遭遇する損傷・障害の判定・手技操作・固定法を修得する 前腕から手・指部の損傷に於いての整と復				
到達目標	学生が卒業後、臨床現場で活躍できる知識および技能を身につける 患者の立場になり接するようになる柔道整復師となる 最低限の整復・固定が出来、復させる（手技操作）事が出来るようになる				
成績評価	1. 定期実技試験 2. 授業態度および小実技テスト（理解などを総合的な評価） 3. 出席日数 ※配点比率は、1＝60%、2＝40%、3＝欠席1時間につき－1点とする 内職も－1点とし3回以降は毎回－5点とする				
使用教材	・柔道整復学 理論編、実技編、包帯固定学 ・映像・画像（含むインターネット）				
留意点	卒業後の臨床に役立つように身近な症例の実技とコツを伝授、また柔整手技の重要性を理解させたい 患者さんの利益を最優先に考える				

回 数	授業計画
第1回	手・指部の外傷 整と復
第2回	手・指部の外傷 整と復
第3回	手・指部の外傷 機能障害に対して
第4回	上肢の整と復
第5回	上肢の外傷 整と復
第6回	鎖骨骨折・上腕骨骨折・肩鎖関節上方脱臼・肩関節前方脱臼 整復固定
第7回	鎖骨骨折・上腕骨骨折・肩鎖関節上方脱臼・肩関節前方脱臼 整復固定
第8回	前腕骨下端部骨折・肘関節前方脱臼 整復固定
第9回	前腕骨下端部骨折・肘関節前方脱臼 整復固定
第10回	上肢軟部組織損傷 整と復
第11回	上肢軟部組織損傷 全上
第12回	上肢軟部組織損傷 全上
第13回	上肢軟部組織損傷 機能障害に対して
第14回	後期実技テスト
第15回	総評 柔道整復師のすべきこと

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	実技ⅤA	科目の別	実 技	単位数	1
担当教員	鈴木 聖子	実務経験	有	時間数	30
学修内容	体幹、下肢について解剖学、運動学の観点から傷病を把握し検査・治療の必要性を理解する				
到達目標	臨床を想定した場合、患者さんにどうアプローチするかを考え責任ある行動ができるようになる。				
成績評価	実技テスト、小テストにて評価する。 試験結果と各期の出席率及び授業態度等を勘案して評価する。				
使用教材	柔道整復学理論編・実技編 (南江堂) 包帯固定学 配布プリント				
留意点	国試においても実技に関する問題、臨床的な問題の比率が増加していることを意識させ実技科目履修への意欲を学生に持ってもらえるにする。				

回 数	授業計画
第 1 回	足関節の機能解剖
第 2 回	足関節の検査法
第 3 回	小テスト（足関節の機能解剖・検査法）および足関節の機能解剖・検査法の練習
第 4 回	小テスト（足関節の機能解剖・検査法）および足関節の機能解剖・検査法の練習
第 5 回	足関節の治療法 1. 包帯固定法
第 6 回	足関節の治療法 2. テーピング
第 7 回	足関節の治療法 1. 包帯固定法 2. テーピング
第 8 回	足関節の治療法 3. ギプス固定法 4. 運動療法
第 9 回	小テスト（足関節の治療法）および足関節の治療法の練習
第 10 回	小テスト（足関節の治療法）および足関節の治療法の練習
第 11 回	膝関節の機能解剖
第 12 回	膝関節の検査法（触診）
第 13 回	膝関節の検査法（十字靱帯・半月板・側副靱帯検査法）
第 14 回	小テスト（膝関節の機能解剖・検査法）および膝関節の機能解剖・検査法の練習
第 15 回	小テスト（膝関節の機能解剖・検査法）および膝関節の機能解剖・検査法の練習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	実技 V B	科目の別	実 技	単位数	1
担当教員	鈴木 聖子	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	体幹、下肢について解剖学、運動学の観点から傷病を把握し検査、治療の必要性を理解する				
到達目標	臨床を想定した場合、患者さんにどうアプローチするかを考え責任ある行動ができるようになる。				
成績評価	実技テスト、小テストにて評価する。 試験結果と各期の出席率及び授業態度等を勘案して評価する。				
使用教材	柔道整復学理論編・実技編 (南江堂) 包帯固定学 配布プリント				
留意点	国試においても実技に関する問題、臨床的な問題の比率が増加していることを意識させ実技科目履修への意欲を学生に持ってもらえるにする。				

回 数	授業計画
第 1 回	膝関節の治療法 1. 包帯固定法
第 2 回	膝関節の治療法 2. テーピング
第 3 回	膝関節の治療法 3. 運動療法
第 4 回	小テスト（膝関節の治療法）および膝関節の治療法の練習
第 5 回	小テスト（膝関節の治療法）および膝関節の治療法の練習
第 6 回	腰部の機能解剖
第 7 回	腰部の検査法（触診・椎間板ヘルニア検査法）
第 8 回	股関節の機能解剖
第 9 回	股関節の検査法（触診）
第 10 回	小テスト（腰部・股関節の機能解剖・検査法）および腰部・股関節の検査法の練習
第 11 回	小テスト（腰部・股関節の機能解剖・検査法）および腰部・股関節の検査法の練習
第 12 回	腰部・股関節の治療法（固定法・就寝時や起床時の体位変換）
第 13 回	腰部・股関節の治療法（股関節の運動療法）
第 14 回	小テスト（腰部・股関節の治療法）および腰部股関節の治療方法の練習
第 15 回	小テスト（腰部・股関節の治療法）および腰部股関節の治療方法の練習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	臨床入門 I	科目の別	実 習	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	○・無	時間数	3 0
学修内容	臨床現場で必要となる病態把握をするために必要となる基本的な知識や検査、測定方法を正確に行えるようにする。				
到達目標	・解剖学的知識をもとに正確な触察を習得する。 ・主に上肢の可動域測定・徒手筋力テスト・各種理学的所見（知覚検査や腱反射等）を正確に行えるようにする。				
成績評価	中間試験 3 0 %（主に医療面接と肩の R O M 検査と徒手筋力テスト） 定期試験 7 0 %（主に肘・手関節の R O M 検査と徒手筋力テスト）				
使用教材	運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢（MEDICAL VIEW） 理学療法評価学（金原出版）				
留意点	臨床に出た際に直結する内容であるため、常に医療従事者としての行動・気配りを意識させ、現場に出た際の注意点を常に意識させながら授業を進める。				

回 数	授業計画
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	上肢長・下肢長・周径測定
第 3 回	肩関節 解剖復習及び触察
第 4 回	可動域測定
第 5 回	徒手筋力テスト
第 6 回	肘関節 解剖復習及び触察
第 7 回	可動域測定
第 8 回	徒手筋力テスト
第 9 回	手関節 解剖復習及び触察
第 10 回	可動域測定
第 11 回	徒手筋力テスト
第 12 回	臨床実習前施術試験説明
第 13 回	臨床実習前施術試験練習
第 14 回	臨床実習前施術試験練習

第 15 回	総復習
--------	-----

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	臨床入門Ⅱ	科目の別	実 習	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	○・無	時間数	30
学修内容	臨床現場で必要となる病態把握をするために必要となる基本的な知識や検査、測定方法を正確に行えるようにする。				
到達目標	・解剖学的知識をもとに正確な触察を習得する。 ・主に下肢の可動域測定・徒手筋力テスト・各種理学的所見（知覚検査や腱反射等）を正確に行えるようにする。				
成績評価	中間試験 30%（主に股関節・膝関節のROM検査と徒手筋力テスト） 定期試験 70%（主に足関節・脊柱のROM検査と徒手筋力テスト）				
使用教材	運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢（MEDICAL VIEW） 理学療法評価学（金原出版）				
留意点	臨床に出た際に直結する内容であるため、常に医療従事者としての行動・気配りを意識させ、現場に出た際の注意点を常に意識させながら授業を進める。				

回 数	授業計画
第 1 回	医療面接
第 2 回	医療面接ロールプレイング
第 3 回	股関節 解剖復習及び触察
第 4 回	可動域測定
第 5 回	徒手筋力テスト
第 6 回	膝関節 解剖復習及び触察
第 7 回	可動域測定
第 8 回	徒手筋力テスト
第 9 回	足関節 解剖復習及び触察
第 10 回	可動域測定
第 11 回	徒手筋力テスト
第 12 回	脊柱（体幹） 解剖復習及び触察
第 13 回	可動域測定
第 14 回	徒手筋力テスト

第 15 回	総復習
--------	-----

2023 年度 授業計画		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	総合実技 I A	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	認定実技審査の出題項目に対応した施術実技を行う。 国家試験（特に必修問題）の対策を行う。				
到達目標	認定実技審査および国家試験における合格基準を達成する。				
成績評価	中間試験 60%（30%×2 回） 期末試験 40%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 認定実技審査要領および中和式マニュアル				
留意点	出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を心がけること。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション（認定実技審査および国家試験の概要）
第 2 回	鎖骨定型的骨折
第 3 回	上腕骨外科頸骨折
第 4 回	コーレス骨折
第 5 回	第 1 回中間試験（30%）
第 6 回	肩鎖関節上方脱臼
第 7 回	肩関節前方烏口下脱臼
第 8 回	肘関節後方脱臼
第 9 回	肘内障
第 10 回	第 2 回中間試験（30%）
第 11 回	肩腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷
第 12 回	ハムストリングス損傷・大腿四頭筋打撲
第 13 回	膝関節（側副靱帯・十字靱帯・半月板）損傷
第 14 回	下腿三頭筋損傷・足関節外側靱帯損傷
第 15 回	期末試験（40%）

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	総合実技 I B	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	認定実技審査の出題項目に対応した施術実技を行う。 国家試験（特に必修問題）の対策を行う。				
到達目標	認定実技審査および国家試験における合格基準を達成する。				
成績評価	中間試験 60%（30%×2 回） 期末試験 40%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 認定実技審査要領および中和式マニュアル				
留意点	出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を心がけること。				

回 数	授業計画
第 1 回	骨折の復習
第 2 回	脱臼の復習
第 3 回	第 1 回中間試験（30%）
第 4 回	軟部組織損傷の復習
第 5 回	軟部組織損傷の復習
第 6 回	第 2 回中間試験（30%）
第 7 回	総復習
第 8 回	総復習
第 9 回	総復習
第 10 回	国家試験必修問題対策
第 11 回	国家試験必修問題対策
第 12 回	国家試験必修問題対策
第 13 回	国家試験一般問題対策
第 14 回	国家試験一般問題対策
第 15 回	期末試験（40%）

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	総合実技ⅡA	科目の別	学 科	単位数	1 単位
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	30 時間
学修内容	認定実技試験に対応できる、知識と技術を獲得する。 国家試験に向けた総合学習を行う。				
到達目標	固定法を行うことができる。 各骨折、脱臼について説明することができる。				
成績評価	授業内に行う確認試験にて評価を行う (前期：3 回)				
使用教材	授業内で配布する資料 柔道整復学（理論編・実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 包帯固定法：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	内容説明 絆創膏固定① 鎖骨骨折
第 2 回	絆創膏固定② 肩鎖関節脱臼
第 3 回	シーネ固定① ミッテルドルフ
第 4 回	シーネ固定② コーレス骨折、肘関節脱臼
第 5 回	シーネ固定③ アキレス腱、下腿骨幹部
第 6 回	第 1 ～ 5 回の確認
第 7 回	アルミ副子固定① ボクサー骨折
第 8 回	アルミ副子固定② 第 2 PIP 関節脱臼
第 9 回	厚紙副子固定① 肋骨骨折、肩関節脱臼
第 10 回	厚紙副子固定② 足関節捻挫
第 11 回	第 7 ～ 10 回の確認
第 12 回	テーピング固定① 膝関節、足関節
第 13 回	テーピング固定② 足関節
第 14 回	テーピング固定③
第 15 回	第 12 ～ 14 回の確認

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	総合実技ⅡB	科目の別	学 科	単位数	1
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	30
学修内容	認定実技試験に対応できる、知識と技術を獲得する。 国家試験に向けた総合学習を行う。				
到達目標	固定法を行うことができる。 各骨折、脱臼について説明することができる。				
成績評価	認定実技模試と認定実技審査の結果を元に評価を行う				
使用教材	授業内で配布する資料 柔道整復学（理論編・実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 包帯固定法：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習
第 2 回	シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習
第 3 回	シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習
第 4 回	絆創膏・テーピング固定練習
第 5 回	絆創膏・テーピング固定練習
第 6 回	絆創膏・テーピング固定練習
第 7 回	認定実技模試前総合復習
第 8 回	模試反省改善点の確認
第 9 回	総合復習
第 10 回	総合復習
第 11 回	総合復習
第 12 回	総合復習
第 13 回	総合復習
第 14 回	総合復習
第 15 回	総合復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	外傷予防	科目の別	実 技	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	有・無	時間数	3 0
学修内容	競技者・高齢者に発生する外傷の特徴と、その予防について学習する。				
到達目標	競技者と高齢者に発生する外傷の特徴を理解し、説明することができる。 外傷を予防するための方法を適切に指導することができる。				
成績評価	定期試験 50% 中間試験 50%				
使用教材	競技者の外傷予防：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復師と機能訓練指導：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	柔整理論の各論で学習した内容が含まれるため、復習して授業に臨むこと。 30 時間の内訳は、「競技者の外傷予防 15 時間」、「高齢者の外傷予防 15 時間」で実施する。				

回 数	授業計画
第 1 回	競技者の外傷予防 運動生理学の概要
第 2 回	競技者の外傷予防 運動生理学の概要
第 3 回	競技者の外傷予防 概論・外傷の発生原因 外傷の予防対策
第 4 回	競技者の外傷予防 メディカルチェック 評価と判定
第 5 回	競技者の外傷予防 コンディショニング方法
第 6 回	競技者の外傷予防 コンディショニング方法 種目別の外傷予防
第 7 回	競技者の外傷予防 種目別の外傷予防
第 8 回	競技者の外傷予防 成長期の外傷予防、高齢者の外傷予防 高齢者の特徴
第 9 回	高齢者の外傷予防 受傷メカニズム
第 10 回	高齢者の外傷予防 ロコモティブシンドローム / サルコペニア / フレイル
第 11 回	高齢者の外傷予防 転倒予防
第 12 回	高齢者の外傷予防 機能訓練
第 13 回	高齢者の外傷予防 運動と要点
第 14 回	高齢者の外傷予防 運動と要点
第 15 回	高齢者の外傷予防 運動と要点

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2～3年	学 期	通 年
科目名	臨床実習	科目の別	実 習	単位数	4
担当教員	戸崎素成	実務経験	有	時間数	180
学修内容	学校で学んだ事を、臨床現場で活用できるようにする。 患者さんとのコミュニケーションをできるようにする。 接骨院実習で遭遇した症例を振り返り、実習時の対応について妥当性を検討できる。				
到達目標	接骨院業務の流れを覚える。 評価と施術ができる。 レポートおよび発表を通じて第三者に客観的データとともに議論できること。				
成績評価	校内臨床実習と校外臨床実習を勘案して評価する。 評価割合は3：1とする。				
使用教材	臨床実習の手引き				
留意点	臨床実習4単位180時間のうち、1単位45時間分を校外臨床実習として行う。 校外臨床実習のうち、1単位45時間を2年生学年末休業中と3年生夏期休業中に実施する。				

授業計画（学修内容）

基礎実習

- 1) 柔道整復師としてふさわしい服装、身だしなみや態度を身につける
- 2) 医療面接の実施
- 3) ROM、MMTなどを計測、評価の実施
- 4) 神経学的検査、脈管検査、評価の実施
- 5) 治療機器の効果、禁忌の理解
- 6) ベッドメイキング、衛生面への配慮

【見学実習】 環境準備、受付業務、患者さんの誘導を実施

【体験実習】 患者として施術を受け、グループディスカッションの実施

患者さんに対する対応

- 1) 患者に対して適切な対応ができる
- 2) 患者の抱える問題点に共感できる。
- 3) 自己の問題点を抽出し、解決できる。

施術録作成・症例検討

- 1) 施術録の記載
- 2) 症例検討の実施

保険請求（受療委任の手続き）

- 1) 手続きの意義
- 2) 記載方法の実施